

午前10時開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問(会派代表)

- ▽ 佐藤剛太議員
 - ・ 西部地区防災コミュニティセンターの整備について
 - ・ 防災について
 - ・ スポーツ施設の整備について
- ▽ 菊地忍議員
 - ・ 中央地域の整備計画について
 - ・ 岩沼市農業委員会の取組について
- ▽ 佐藤一郎議員
 - ・ 新火葬場の委託について
 - ・ 高齢者対策について
 - ・ 子育て支援について
- ▽ 沼田健一議員
 - ・ 東日本大震災における復旧、復興事業の総括について
 - ・ 仙台空港民営化について
 - ・ 観光振興策の中の広域観光戦略について
 - ・ 市長の政治姿勢について
- ▽ 須藤功議員
 - ・ 入札について
 - ・ 陸上競技場等について
 - ・ 亀塚第一住宅跡地について
 - ・ 都市計画道路と雨水排水対策について
 - ・ 市長選出馬について

午後3時30分延会

平成30年第2回岩沼市議会定例会会議録

2日目 平成30年3月5日(月曜日)

出席議員(18名)

1番	佐藤剛太	10番	渡辺ふさ子
2番	菊地忍	11番	佐藤一郎
3番	高橋光孝	12番	国井宗和
4番	植田美枝子	13番	布田一民
5番	佐藤淳一	14番	長田忠広
6番	大友健	15番	飯塚悦男
7番	布田恵美	16番	沼田健一
8番	酒井信幸	17番	櫻井隆
9番	須藤功	18番	森繁男

欠席議員(なし)

説明のため出席した者

市長	菊地啓夫	子ども福祉課長	石垣千佳子
副市長	鈴木隆夫	商工観光課長兼 産業立地推進室長	新妻敏幸
総務部長	大友彰	生活環境課長	桂島和浩
健康福祉部長	高橋広昭	復興・都市整備課長	菅原伸浩
市民経済部長	菅井秀一	下水道課長	大久保智志
建設部長	高橋伸明	水道事業所長	森康雄
総務課長	石垣茂	消防本部 消防長	菅原敬
政策企画課長	遠藤大輔	教育委員会 教育長	百井崇
復興創生課長	大友康弘	教育次長兼 教育総務課長事務取扱	高橋弘昭
防災課長	平井光昭	生涯学習課長兼 スポーツ振興課長	沼田輝明
さわやか市政推進課長	渡辺里美	農業委員会 会長	佐藤勲
健康増進課長	菅原亜由美	事務局長	亀田明彦
介護福祉課長	今田昌美	監査委員 委員	鎌田壽信
社会福祉課長	大元利之	事務局長	横尾芳郎

議会事務局職員出席者

参事兼事務局長	高橋進	議事係長	佐藤俊輔
局長補佐	近藤祐高		

議事日程

平成30年3月5日（月曜日）午前10時開議

1. 開議宣告

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問（会派代表）

2. 閉議宣告

本日の会議に付した事件

日程第1・日程第2

（佐藤剛太議員、菊地忍議員、佐藤一郎議員、沼田健一議員、須藤功議員）

午前10時開議

○議長（森繁男）御起立願います。おはようございます。

ただいまの出席議員は18名であります。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（森繁男）日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第79条の規定により、8番酒井信幸議員、9番須藤功議員を指名いたします。

日程第2 一般質問

○議長（森繁男）日程第2、一般質問を行います。

一般質問は、初めに会派代表による会派代表質問、次に、会派に所属しない議員による個人質問の順に一問一答方式で行います。

一般質問を円滑に行うために、通告している質問事項順に質問事項を明らかにして質問されるようお願いいたします。

また、質問項目を割愛する場合については、その理由を述べて行っていただくようお願いいたします。

初めに、岩沼政策フォーラム、佐藤剛太議員の会派代表質問を行います。発言席において発言してください。1番佐藤剛太議員。

〔1番佐藤剛太議員発言席〕

○1番（佐藤剛太）1番、岩沼政策フォーラム、佐藤剛太。岩沼政策フォーラムの質問を通告に従い、会派を代表して、沼田健一議員、佐藤一郎議員、菊地忍議員と私の4名で行わせていただきます。今回も岩沼の未来のために精いっぱい質問させていただきますので、よろしく願いいたします。

西部地区にとって、防災がこれからの最も重要な課題の1つと言えます。西部地区における土砂災害危険区域がことし100カ所以上に拡大します。これからは、市民が安心・安全に暮らせるために、防災に対するさまざまな対策を行っていかねばなりません。その中の1つに、昨年から取り上げていた防災拠点の整備があり、それが平成30年度の予算で実現に向けて進んでいることを確認しました。そこで、西部地区防災コミュニティセンターについて質問を行います。

現在、西部地区には岩沼西児童館が併設されている岩沼西公民館があります。近隣住民やサークル活動、そして放課後児童クラブ、バス通学の子どものための待機所や多くの市民に利用されております。そこで1、西部地区防災コミュニティセンターの整備を進めていくことで、既存の岩沼西公民館は今後どのように活用していくのかお伺いします。

○議長（森繁男）市長の答弁を求めます。菊地啓夫市長。

○市長（菊地啓夫）議員おっしゃられたとおり、現状の西公民館については、御案内のとおり、児童センターと併設のため大変手狭になっており、駐車場も少ないということで、いざというときの一時避難場所としては難しい状況にあるだろうという前提のもとに分離したいと考えております。詳しくは、総務部長よりお答えをさせます。

○議長（森繁男）大友彰総務部長。

○総務部長（大友彰）既存の西公民館・児童センターにつきましては、西児童センターとして活用させていただき、新たに子育て支援センター機能を整備することで、西部地区における子育て拠点としていきたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）今の西公民館を分離させ、西児童センターと、その中に子育て支援センターを整備していくということでした。昨年も言っておりましたが、やはり南プラザ、そして今玉浦、岩沼の中央に子育て支援センターの整備を進めていく中で、やはり西地区は県内でも有数の児童数がありますので、やっぱり西地区にこそ早急の子育て支援センターの整備が必要になると思っておりますが、それについてお伺いいたします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）議員おっしゃるとおり、整備を急ぐべきだと考えておりますが、ただいまおっしゃられましたとおり、南プラザにございまして、現在東保育所に支援センターを整備しようとしております。また、亀塚のほうにも支援センター機能を持った保育所を、建設を現在いただこうということで計画を進めているところで、順次進めさせていただくというふうに考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、わかりました。

西部地区は、岩沼西小学区と南長谷地区が合わさった、とても広範囲な地区となっております。そこで、2の質問です。この広範囲の西部地区において、防災コミュニティセンターの建設予定地はどのように考えておるか、お伺いします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）西公民館を一時避難所として使用されていた方々が、同じように利用ができて、西公民館を利用されていた方々に、団体利用などをされていた方々に不便を感じさせないような場所で、加えてですね、避難レベルの上昇に合わせて円滑に避難行動がとれる、避難所となる西小学校に近い場所を選定したいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）西公民館を使っていた方が不便に感じない、そして避難所として活用ができる。それに対して、その施設はどの程度の面積を考えておるか、お伺いいたします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）はっきりしたところは、まだ固まっておりませんが、玉浦コミュニティセンター程度の面積が必要になるかというふうに考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。建設の予定地に西公民館の利用者に不便をかけない、避難所として使える、そして面積は玉浦コミュニティセンターぐらいの面積を考えているということでした。

市は、多分予算も今回つけておりますので、実現に向けて計画を進めていると思っておりますが、場所はまだまだ言ったりできないと思うのですが、これに適した地区というか、土地が西部地区には存在するか、お伺いします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）いろいろその条件がございまして、できるだけ一時避難所、そして次の小学校……、済みません、西小学校に避難できる経路等々を考えまして、その近くということで今は進めてございまして、適

地を今、大体は絞り込んでおるんですが、まだ発表することまでには至っておりません。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。発表するのを心待ちにしております。

続けて、3の今後の整備スケジュールについてお伺いいたします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）30年度におきまして用地の選定と用地の取得を行い、その後に造成工事に係る測量及び設計に着手してまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。30年度に用地を選び、そして用地を購入し、着工していく。おおよそでいいんで、平成何年に完成予定でしょうか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）次年度以降にですね、土地の造成などを順次進めていくこととなりますが、土地の状況によりまして地盤改良なども必要かもしれませんので、はっきりいつごろというところは申し上げられないんですが、3年ないし4年先を目指して事業を進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。3年から4年後に事業開始ということで、心待ちにしております。

先ほども質問させていただきましたが、この公民館、コミュニティセンターが、事業が始まると同時に、岩沼西児童センターができ、その中で子育て支援の拠点が始まるか、お伺いいたします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）子育て支援センター機能につきましては、その施設の移行ですか、の時間も必要としますので、どちらの施設も同じにできれば、なお結構なんですけど、その辺は今後十分検討してまいりたいと思います。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい。やはり先ほども言いましたが、西地区には子育て支援の拠点が必要でございます。これもあわせてできるようにお願いいたします。

続けて、4の質問に移らせていただきます。整備費、建設費が総額どれぐらい必要となり、財源をどのように考えておるのかお伺いします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）財源につきましてはですが、この施設につきましてもですね、これまでの新しくつくる施設と同様に検討委員会を設置させていただいて、利用者の皆さんや地域の方の御意見などもいただきながら、設計に反映させてまいりたいと考えております。そのようなこと、またあと造成に関する経費のほうもですね、場所によってどれぐらいかかるかというところがはっきりいたしませんので、総事業費を算定することは、現在としてはちょっと難しいところかと考えております。また、財源につきましては、起債を起こさせていただくのと、施設保全整備基金などの活用を現在考えているところです。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。財源は基金などを活用して、今後検討委員会を立ち上げて、検討していくということはわかりました。

次の質問と多少重複するようになるんですけども、玉浦コミュニティセンターや、公設跡地でも有識者による検討委員会がつくられ、さまざまな検討を行ってきました。そこで、施設の管理、運営をどのように考えているか、もう一度お伺いします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）市といたしましては、施設の管理の方向性としては、可能な施設はぜひとも管理運営を地域の皆様方をお願いしてまいりたいとは考えておりますが、どのような管理運営方法になるか、西部地区

にとってふさわしいのはどのような形なのかというところは、今後検討することになりますので、これから設置させていただく検討委員会の御意見を踏まえまして、進めてまいりたいと思います。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。平成30年度に土地を購入してというお話でしたが、その検討委員会というのはいつごろから立ち上げる予定でありますか。お伺いします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）30年度中の準備を考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。30年度中に検討委員会をつくられると。検討委員会をつくられるということでした。

次にお伺いしますが、この検討委員会の中で例えば亀塚のように民間で運営することも必要なのではないかという意見が出たら、やはりその方向も考えていくのか、お伺いいたします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）亀塚とはちょっと状況は違うと思うんですが、現在玉浦コミュニティセンターにつきましては、地域の方に管理運営をお願いすべく、いろいろな準備をさせていただいているところです。そのようなことが西部地区でも可能なかどうか、今後検討委員会で御協議をいただきながら、御意見をいただきながら、どのような形がふさわしいかという部分は、今後の検討ということで考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。では、6の質問に移らせていただきます。

防災コミュニティセンターとは、どのような機能がある施設になるのかお伺いいたします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）はい。玉浦コミュニティセンターと同じようにですね、平常時にありましては、公民館のような地域住民の方の活動の場、さまざまな地域活動の拠点としての機能を持っていただきまして、災害時にあっては一時避難所としての必要な機能を持たせたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。一時避難所としての必要な機能を持たせていただきたいということは、そこから避難される場所はどこを考えているか、お伺いします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）先ほどの質問で答弁させていただいたとおり、西小学校を考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。やはりこう、皆さん西部地区では防災について、いろいろ考えておられると思うので、やはりこう、早急な提案とか、具体的なものがあれば進んでいくと思うので、今後ともよろしくお伺いいたします。

続けて、②の防災についての質問に移らせていただきます。

平成29年度、29年第4回定例会で土砂災害危険区域に、新しく土砂災害危険区域に指定された地域に、ハザードマップを作成し配付するとのことでした。30年度もハザードマップを作成し、配付するというのですが、このハザードマップはどのように作成し、どのように使っていくのかお伺いいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）防災については、議員御存じのとおりですね、これから土砂災害警戒区域については100カ所程度ふえるという予測のもとにですね、今さまざまな検討をしております、危険区域の指定のあったところから、ハザードマップの作成ということになりますので、その具体的な内容については総務部長よりお話をさせていただきます。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）ハザードマップにつきましては、県が警戒区域を指定した後ですね、速やかに作成する

こととしております。また、このマップによりですね、土砂災害危険区域等の周知、防災知識の普及を図るとともに、避難時に活用していただければと考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。30年度もやはり、こう新しく指定された地域にハザードマップを配っていくということでしたが、やはりこう、私も土砂災害危険区域の中に住んでおるんですが、情報って、やっぱりこう皆さんに知らせることがすごく大事だと思いますんで、周囲に伝えることがすごくやっぱり大事になると思います。経費はやはりかかりますが、新しく指定されたところにもすぐ迅速な正しい情報を伝えていただけるようお願いいたします。

それでは、2の質問です。土砂災害危険区域が拡大される中、西部地区……、今後の西部地区に……、済みません。西部地区についての今後の対応をお伺いいたします。

○議長（森繁男）平井光昭防災課長。

○防災課長（平井光昭）お答えします。

西部地区にはですね、議員さんおっしゃるとおり、今後土砂災害警戒区域等として指定が予定されている区域が数多くありますことから、今回のハザードマップの配付にあわせて周知を図るとともに、地域の皆様と避難などについての打ち合わせ等も十分行ってまいりたいというふうに考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。地域の方々と避難の打ち合わせとかを進めていくということでした。

今回の議会の施政方針でもございましたが、昨年新しく防災危険区域が三色吉地区にふえました。二反田ため池を調整池として活用するということがございましたが、それは具体的にどのようなことをされるのか、お伺いいたします。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）二反田ため池につきましては、これまで農業用の貯留地ということで一部利用しておりましたが、この農業用のため池については必要ないということから、これを全面的に調整池、ですから雨水を一時的にためる調整池として活用を図っていくということでの整備を行ってまいります。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）農業用では、やっぱりもう余り使わなくなったので、調整池として防災のために使うということ、すごくこういうことも大事だと思いますので、やはりこう、市内いろんな場所でやっぱりそういうものも活用していただけたらと思います。

もう1点が西部地区において、やはり土砂災害危険区域が集中する志賀地区、小川地区があると思うんですけれども、その地区にとって今後どのような対応を進めていくのかお伺いいたします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）先ほどの答弁と繰り返しになる部分もございますが、ハード面の整備というのはなかなか難しい部分もございますので、各地区の皆さんのところにうちの担当職員のほうが出向きまして、危険な場合の避難の仕方、どのような避難の方法が安全を確保できるのかというような打ち合わせをさせていただいて、防災訓練なども活用させていただいて、安全に身を守る方法というのをですね、住民の皆さんと検討してまいりたいと考えているところでございます。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）今後とも検討してください。特にあの、今工事中ですが、志賀姥ヶ懐トンネルが開通すれば、やはり市民は余りいなくても、多くの人が往来すると言われておりますので、やはりそのためにも安心・安全にできるように対策をお願いいたします。やはり冒頭でもお話しさせていただきましたが、西部地区にとって防災がやはりこれからの最も重要な課題になります。市民が安心・安全に暮らせるこれからの政策を、何とぞよろしくをお願いいたします。

それでは、3のスポーツ施設の整備についての質問を行います。

第4回定例会において、老朽化した陸上競技場と武道場の整備について請願が採択されました。多くの市民が心待ちにしていた陸上競技場。やっと直るということで、その陸上競技場についての質問を行わせていただきます。

陸上競技場、トラック及び芝生フィールドが整備されるが、財源をどのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（森繁男）教育長の答弁を求めます。百井崇教育長。

○教育長（百井崇）陸上競技場につきましては、今年度改修を予定しております。詳しくは次長のほうからお答えいたします。

○議長（森繁男）高橋弘昭教育次長。

○教育次長兼教育総務課長事務取扱（高橋弘昭）特定財源としましては、スポーツ振興くじ助成金並びに基金繰入金、起債を見込んでおります。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）ありがとうございます。スポーツ振興くじの基金と……、スポーツ振興くじの助成金と、スポーツ基金を予定されているところでした。スポーツ振興くじの助成金は、本市で助成されるということはまだ決まっておるのかお伺いいたします。

○議長（森繁男）沼田輝明生涯学習課長兼スポーツ振興課長。

○生涯学習課長兼スポーツ振興課長（沼田輝明）お答えします。

スポーツ振興くじ、いわゆるtotoの助成金につきましては、1月に芝生、2つのメニューがございます。芝生のメニューと、あとトラックのメニュー、2通り申請を行っているところでございます。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）芝生とトラックの申請を行っているということでした。ということは、まだ助成されることは決まっていんでしょうか。

○議長（森繁男）沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長。

○生涯学習課長兼スポーツ振興課長（沼田輝明）交付の決定時期については4月というふうに伺っております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）交付の決定は4月ということでした。ということは、助成されると思いますが、万が一されない場合もあるのかどうか、確認でお伺いします。

○議長（森繁男）高橋教育次長。

○教育次長兼教育総務課長事務取扱（高橋弘昭）条件に合った申請をしておりますので、不採択ということは想定しておりませんが、万が一そのようになった場合については、財源の手当てについて改めて検討が必要だと思っています。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）ありがとうございます。助成されない場合は、万が一助成されない場合は、財源の手当てを考えるとということです。このスポーツくじというのは、ことしだめであれば来年再申請することはできるのかどうか、お伺いいたします。

○議長（森繁男）沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長。

○生涯学習課長兼スポーツ振興課長（沼田輝明）ことしゼロということであれば、来年度申請することは可能です。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。ことしがゼロであれば、来年申請することができるということでした。

この芝生とトラックで申請された場合、助成金というのはどれくらいおりてくるのかお伺いいたします。

○議長（森繁男）沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長。

○生涯学習課長兼スポーツ振興課長（沼田輝明）芝生につきましては、芝生化改設事業ということで助成率が

4分の3、助成金の限度額の上限額が3,000万円。トラックについては、スポーツ競技施設の大規模改修等という事業で、助成率3分の2で上限が1億円となっております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）ありがとうございます。芝生については、上限が3,000万円、トラックについては1億3,000万円。であれば、うまくいけば1億……、あっ、済みません。トラックについては1億。うまくいけば1億3,000万円ぐらいの助成金が出るということですね。であれば、その申請が通らない場合、整備を延長して、再度申請して来年に工事をするという、整備をするということも考えているのかどうか、お伺いいたします。

○議長（森繁男）高橋教育次長。

○教育次長兼教育総務課長事務取扱（高橋弘昭）先ほどもお答えいたしましたけれども、条件に沿ったですね、申請をしております。ですから、まるっきりだめだということはないかとは思っておりますけれども、なおそういったことがあった場合については改めて検討して対応させていただきたいと思っております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）まるっきりだめということはないと。ただ、もし申請が通らない場合は、今度この1億3,000万円ぐらいの助成金が得られるのであれば、再度その工期を延長して、来年以降に私は整備したほうがいいと思うんですけども、その件に関してお伺いいたします。

○議長（森繁男）百井教育長。

○教育長（百井崇）この件については大きい金額がかかわりますので、再度こちらで検討させていただきます。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。やはり1億3,000……、1億以上のものなので、とても大きい金額なので、やはりそれを急ぐのではなく、もし助成とかがされるのであれば、その助成金とかをうまく活用して、使っていただけたらなと思っております。

続けて、(2)の整備期間についてお伺いいたします。

○議長（森繁男）沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長。

○生涯学習課長兼スポーツ振興課長（沼田輝明）今回の工事規模を勘案しますと、準備期間を含めて約8カ月の工事期間が必要になると見込んでおります。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）8カ月必要になるということでした。ということは、ことしのエアポートマラソンにはもう間に合わない感じでしょうか。

○議長（森繁男）沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長。

○生涯学習課長兼スポーツ振興課長（沼田輝明）8カ月というのは準備期間、要するに資料の整備期間も合わせてということなので、工程的には厳しい日程になりますが、エアポートマラソンは陸上競技場で開催できるものと考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。助成金が4月に申請が通れば、8カ月の工事、準備期間を含めて工事をして、12月のエアポートマラソンには陸上競技場の整備は間に合うということですね。ありがとうございます。

では、(3)の整備後の利用についてお伺いいたします。

○議長（森繁男）沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長。

○生涯学習課長兼スポーツ振興課長（沼田輝明）整備後の利用については、従来どおりの使用方法、貸し出しというふうに考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）ありがとうございます。整備されて、3億以上かけて整備をされて、この今までの利用料金とかを見直すことは考えていないのかどうか、お伺いいたします。

○議長（森繁男）高橋教育次長。

○教育次長兼教育総務課長事務取扱（高橋弘昭）改修工事をしたことによって、値上げをするといった考え方はございません。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。皆さんがどう思っているか、ちょっとあれですけど、我が会派ではこの、せっかく直して、3億以上かけて直して、今までと同じようにするのであれば、せっかくこういういい機会といったら、すごくだめなんですけども、新しくなったとき、この利用料金等々、規則等々も見直すことが必要なのかなと。幾らかでもやはりこう、利用される市民の皆様に負担してもらって、上げることも必要なのではないかなと思っているんですが、その件に関して伺います。

○議長（森繁男）高橋教育次長。

○教育次長兼教育総務課長事務取扱（高橋弘昭）平成31年10月からの消費税10%に合わせまして、30年度において全庁的に関係施設の使用料金の見直しを検討する計画としております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。やはり消費税が今度10%になりますんで、やはりいい機会といえいい機会なんですけども、やはり利用される方も大事に利用するといったらおかしいかもしれませんが、市民のものなんで、負担をその、受益者負担を少し上げていくことも、やはりこれからは必要なのかなと思っております。28年たって、やっとう大規模整備ができたので、少しでもこう、今後維持費や整備費に使っていくことが必要だと思っております。

あわせてですが、やはりこれからのほかの多くの自治体、柴田町とかいろいろ見させてもらうと、命名権を民間企業に売ったりして、その名前を与えるネーミングライツを多く使っておるんですが、本市においても少しでも財源を確保するために、ネーミングライツを取り入れるべきだと思いますが、その件に関して伺います。

○議長（森繁男）高橋教育次長。

○教育次長兼教育総務課長事務取扱（高橋弘昭）御提案ありがとうございます。ネーミングライツについては、今のところは考えておりません。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。本市はあの、陸上競技場の横に総合体育館がございます。総合体育館においては、あの規模の駐車場がある、周辺でないのかなと、体育館でないのかなと思っておりますし、あの、何ですか、「ひまわりのたね」って、あの、何ですか、出てこないな、えっと……、今度あの障害者の方がサテライトか、ひまわりのサテライトができるんで、やはりこう、少しでもこう市民の目につくところか、やはり応援したい方っていうのはいると思うんですね。塩竈とかにおかれれば、やっぱり体育館が塩釜ガス体育館となって年間300万円、塩釜ガスから出たりしておるので、少しでもやっぱりこの財源を利用して、積み重ねをしてって、陸上競技場じゃなくて、だけじゃなくて、体育館なりいろんな施設もそういうことを考えて、お金を少しでも、こう生むようにしていくべきだと思います。その件に関しまして、もう一度どうでしょうか。

○議長（森繁男）高橋教育次長。

○教育次長兼教育総務課長事務取扱（高橋弘昭）対象となる施設も含めまして、慎重に検討する必要があると考えておりますので、市長部局とも調整をして、他市町村の動向も見ながら確認していきたいと思っております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。ぜひ、ぜひ、私はすごくいいあれだと思いますんで、市長にどうか伺いたいと思っております。市長、どうでしょうか。

○議長（森繁男）市長の答弁を求めます。菊地啓夫市長。

○市長（菊地啓夫）ネーミングライツについてはですね、いろいろ市でも千年希望の丘にチャレンジしたときもあったんですが、なかなか企業の皆さんとしてはあの……、PR効果なども期待しておりますんでね、な

かなか市の施設では今のところ難しいんだろうと思っております。なお、そういう機会があれば、またお話を進めていきたいと思っております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。ぜひ、こう積極的な取り組みが必要だと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、2のパークゴルフ場についての質問に移らせていただきます。

平成29年第4回定例会において、長谷釜地区にパークゴルフ場を整備することについて、いろいろな話が出ましたが、そのことを、整備することについて検討していくことということでしたが、今後の市の取り組みをお伺いいたします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）パークゴルフ場につきましては、12月定例会であくまでも仮定として長谷釜地区にということ御説明をさせていただいております。現在ですね、財源の見通しが立った段階で、現在の考えといたしましては、財源の見通しが立った時点ですね、本格的に整備についての検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）であれば、ちょっと確認をさせていただきたかったんですけども、仮定ということは、長谷釜地区に決まったわけではないんですよね、もう一度お伺いします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）次の質問にも少し入っていくかなというところなんですけども、パークゴルフ場の計画につきましては、何度か一般質問でも被災地の活用についてということで、議員の皆様からも御提案をいただいております。防災集団移転元地における未利用地の活用案としてですね、検討をスタートしているものがございます。そのような観点から、仮定ではございますが長谷釜地区でということ12月議会に事業費などについても御説明をさせていただいたということでございます。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。ちなみに、本市においてパークゴルフをされている方ってどれぐらいいるか、推測されているかお伺いします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）正確なデータをつかんでおりません。申しわけございません。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）パークゴルフをやられている方が多くなってきたから、パークゴルフ場をつくるというわけではないんですよね。であれば、何か前回の定例会で面積とかコースとかって話も出たような気がするんですけども、本市においてその、もう先ほどの施設じゃない、どれぐらいの面積が必要で、どういうコースを考えているかというのあれば、お伺いいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）具体的な設計とかにはまだ入っておりませんが、30年度で一応調査をするということですね。ホールの数とか場所とかですね、それからグレードの話を以前したことがあるんですけど、そういったグレードについても、まずは方向性を出していきたいということで、30年度は考えております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。

では、(2)の質問、長谷釜地区でなく、市全体から対象すべきでないのかということ、先ほどあの、総務部長の回答で確認させていただきましたので、この質問を割愛させていただきます。

我が会派でもこのパークゴルフ場についていろいろ検討させてもらったんですけども、やはりこう、新しく整備するのではなく、既存の公共施設も活用して、健康増進の推進や交流人口の拡大につなげるべきだと考えております。それに適している施設が、我が会派で考えたの、2つあると今考えております。それを

紹介させていただきます。まず1つがグリーンピア岩沼です。グリーンピア岩沼は体育館やプール、テニスコート、フットサル場、グラウンドゴルフ場など多くの健康増進施設があります。そこにパークゴルフ場を整備することで、岩沼市の健康増進施設の拠点となるのではないのでしょうか。さらに、ホテルも併設しているので、市外からのパークゴルフの愛好者も集まり、市内の、岩沼市においての交流人口の拡大にもつながると考えております。

もう1つが、ハナトピア岩沼です。この施設は、やはり今後、市で解決していかなきゃだめな課題になる施設だと思いますが、やはり有効利用するために何とかしないとだめだと思っております。今ハナトピア岩沼には昨年からテナントで麵組さんが入りました。麵組さんで多くの行列ができていますので、そこを散歩している方とか、多くいられます。ただ、ラーメンを食べて待っているだけの施設だと、とってももったいないんで、もったいないんで、やはりそこ、うまく利用活用することが必要だと思っております。さらには、周辺に本市の観光を代表する金蛇水神社もあります。やはりそこに、グリーンピア岩沼の中にパークゴルフ場があることで、パークゴルフをする方、そして金蛇水神社に行く方で、交流人口の拡大はある程度間違いないと思っております。

そして、両施設とも今回時間が3月12日に変わりますが、市民バスがとまれる停留所がございます。ということは、免許を返納された高齢者の方でも、パークゴルフをやりたいと思えば、その両施設ではバスを使っていくことも可能になると思うので、ぜひ新しい施設を建てるというのもあれですけども、今まである既存の施設を考えていくことが、やはり必要だと思います。その件に関しまして、どうでしょうか。お伺いいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）御提案いただきましてありがとうございます。グリーンピア、そしてハナトピアを提案されているんですが、まあグリーンピアについては以前にこのパークゴルフ場についても検討したんですが、非常に面積的に確保できないということで断念した経緯がありました。ミニパークゴルフ場というぐらいたったら何とかなるんでしょうけれどもね。多くの皆さんが期待して楽しんでいるパークゴルフ場には、ちょっと面積が狭いということです。

それから、ハナトピアについては、いろいろ御提案はいただいておりますが、まだもう少しほかの用途にするまでに時間がかかるんだろうと思いますけれども、さらに御存じのように、借地だという、ちょっと弱点がありますんで、さらに土地を購入するという段階まで進んでパークゴルフ場をつくることになるんで、もう少し今後のですね、土地利用について、市全体で考えていく必要があるんだろうと。とりあえず二野倉、あるいは長谷釜の市の被災地を活用した段階で利用できないか、今優先的に考えているところでございます。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）長谷釜地域とか、二野倉とか、千年希望の丘周辺を活用するのを今検討するということがしたが、やはり新設すれば、今後の維持費も必ず必要になります。やはり市に対して、やっぱり複合的に有効的に使っていくものって、もっとあったほうが、工夫すれば幾らでもできると思っておるんですが、その問題がある施設こそ、やはりこういうのに積極的に活用して有効利用を進めていくことが、やっぱり私は必要だと思います。改めてこの件に関しまして、お伺いいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）おっしゃられるとおりだと思います。問題があるから、早く解決する。解決の手段として、今言ったゴルフ場を使ってはどうかという提案でございますが、コストもかかるわけですね。つくれば当然ランニングコストがかかるわけでございますんで、財源の手当てをまずしなければならぬと思っていますんで、まず今できることからやるということで、調査をしろということで今30年度で考えていますんで、もう少し全体的な検討をさせていただきたいと思っております。

○議長（森繁男）佐藤剛太議員。

○1番（佐藤剛太）はい、ありがとうございます。財源、そう、財源ですね。ただ、先ほどお伺いしましたが、やはりどれぐらいの方が利用されて、どういうコースが必要かというのを、まず市で把握することが必要な

のかなと思うんです。パークゴルフ場をつくることがあれじゃなくて、それも含めて今後、どういう方がやっぱり利用して、どれぐらいの方が来れて、どういう施設にするんだというのを決めてから、進めていくことも必要なのかなと思いますので、何とぞよろしく願いいたします。

これをもって私の質問を終わらせていただきます。

○議長（森繁男）1番、岩沼政策フォーラム佐藤剛太議員の会派代表質問を終了いたします。

続きまして、引き続き、岩沼政策フォーラム、菊地忍議員の会派代表質問を行います。発言席において発言してください。2番菊地忍議員。

〔2番菊地忍議員発言席〕

○2番（菊地忍）岩沼政策フォーラム、菊地忍です。会派を代表して質問を行います。

中央地域の整備計画について質問を行います。

1、（仮称）地域社会活動・地域コミュニティ形成支援施設の運営計画について伺います。

今議会初日の施政方針の中で、（仮称）地域社会活動・地域コミュニティ形成支援施設の整備について、市長より報告がありました。工事については順調に進んでおり、ことし7月末には完成の見込みという報告を受けました。大分建物も見えてきており、大変楽しみなどころであります。この施設は、岩沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みの1つとして、地方創生の推進を目的に、一部ですが、補助金を活用して建設されている状況と確認しました。7月完成後の運営について、公設民営というスタイルで考えていくと認識しております。そこで、質問に入ります。

(1)現段階で運営主体をどのように考えているのか伺います。答弁をお願いします。

○議長（森繁男）市長の答弁を求めます。菊地啓夫市長。

○市長（菊地啓夫）今、御案内のとおり建設中のごさいますて、建設と同時にですね、運営主体の検討にも入っております。それで、その運営主体となる、どういう形がいいんだろうということで、市民の皆さんに検討いただいております、2月20日ですかね、検討内容についての報告がございました。その内容を今精査中のごさいますんで、もう少し具体的な内容までは、踏み込みに時間がかかるだろうと思っております、さらに検討を進めてまいります。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）我が市においても、やはりこれから人口減少、超高齢化社会へ進む中で、さまざまなアイデアと施策を打ち出していかなければならないと思います。建設後の維持管理費についても、負担が重くのしかかってくるのが当然予想されるわけですから、完成後の運用イメージを、いわゆる管理費のことをしっかりと今の時点から考えていく必要があると私は思います。

完成後の運用イメージの部分なんですけれども、我が市においても今回この地方創生の総合戦略を打ち出したわけですから、今までとは同じような施設をつくっているわけではないというふうな部分をはっきり宣言していく部分、ところが必要なんではないかなというふうに考えております。完成後の運用イメージについて、さまざま、アイデアと企画で産業を起こして、維持管理費までも賄えるぐらいのにぎわいを創出するんだと。そんな勢いが必要だと思うのですが、その辺はお考えはどのように考えていますでしょうか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）報告によればですね、基本的な考え方として3つの柱を立てております。1つ目は、まちを明るく人々が気軽に集える場所としての利用、2つ目が未来に向けて岩沼の魅力を発信する場所、そして3つ目がともにつくと、まちづくりができる場所の拠点だということで、そのイメージとしてはその3つを中心にですね、ここを活用していきたいということで提案をいただいております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい。そうすると、ちょっと認識がずれているのかもしれませんが、いわゆる産業を起こすというまでの考えではないということですのでよろしいですかね。

○議長（森繁男）大友彰総務部長。

○総務部長（大友彰）地方創生の観点から、この施設、チャレンジショップを設けることで計画をしております。

すが、ここから岩沼市の、今議員さんがおっしゃったようなですね、そこまで行けるのかというところは全く未知数のことだと考えております。ただいま、仮称ではございますが、今回のこの施設の名称をですね、地域社会活動と地域コミュニティ形成支援の施設だと。基本はまずそこに置いて、その基本のところから、中央通りなどの空き店舗などの起業家の方々の支援もしていきたいということも付加しているという、今現在のところでございます。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい、わかりました。次の質問に移ります。

この地域は、現在公共施設等がなく、町内会の活動やさまざまな活動を行う上で非常に苦慮しているというお話も聞きました。もちろん施設の中には、従来のような会議室や公共施設も予定されているわけですから、地域の方々がどんどん活用していただくことも必要なことと思います。

人が集まりコミュニティが生まれ、意識することでさまざまなアイデアが生まれると思います。この意識することというところが、私は重要だというふうに思います。先ほど部長の答弁の中にも、地域の商店の方々がうまくこう参画していきながら、今後どういうふうになっていくかわからない部分もあるというところで答弁がありましたように、やはりそこは意識して、さまざまなアイデアを出していくということが問われるのかと思います。

そこで、質問です。そんな住民からは、その要望や活用イメージについて、その後どのような声が上がっているのか伺います。

○議長（森繁男）渡辺里美さわか市政推進課長。

○さわか市政推進課長（渡辺里美）先ほど市長からの説明にもありましたとおり、検討委員会の報告書では、この施設の活用イメージとして、まちを明るく、人々が気軽に集まれる場所、未来に向けて魅力を発信する場所、3番目としてともにつくるまちづくりができる場所の3つの御意見をいただいております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）わかりました。20日に報告が上がっているということですので、これを改めて後ほど報告が来るとしますので、しっかり見させていただきたいと思います。

せっかくその企業育成の拠点という部分と、公共施設という部分で、私はどうしてもこの2つの活用イメージがせっかくあるのかなというふうに認識していたものですから、ぜひちょっとその辺もですね、今後視野に入れながらうまくPRをお願いしたいと思います。

次に移ります。そこで③市民に対しての利用増進計画を伺う。

○議長（森繁男）渡辺さわか市政推進課長。

○さわか市政推進課長（渡辺里美）検討委員会からの報告をいただいたばかりであります。その中でも、まだ利用内容についても今後検討してまいります。施設の完成は、先ほどのとおり、7月末に施設が完成しますことから、利用増進のためのPRについては、時期を逃すことなく、広報やホームページなどで行ってまいります。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい、わかりました。ぜひともですね、もうちょっと強気で、地方創生をもっと前に出して、PRをしていただきたいというふうに思います。

それでは、次の質問に移ります。

2、亀塚住宅第一跡地改良について伺います。このほど新年度当初予算の中に、亀塚第一住宅跡地の用地改良として9,158万4,000円の予算計上がされていますが、(1)解体からこれまでにかけた経費を伺います。

○議長（森繁男）高橋伸明建設部長。

○建設部長（高橋伸明）これまでにかかった費用につきましては、住宅の解体にかかった費用が3,606万6,600円、それから造成設計費がですね、1,387万8,000円、合わせまして4,994万4,600円となっております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）合わせると4,900万円ほどかかっているということですが、今後、では今後、この、ここに

かかる経費というのはどれぐらいを予想していますか。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）市といたしましては、今年度……、新年度ですね、予算のほうにも計上しておりますが、造成の工事費と、それから、それを行う上での管理委託費ということで、合わせまして9,100万円ということで、今年度予算のほうにですね、計上しているところでございます。今年度……、済みません、失礼しました。新年度の予算のほうに計上しているところでございます。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）済みません、そうすると今までまず4,900万円、さらに9,100万円ということでよろしいでしょうか。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）はい、そのとおりでございます。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい。さらに9,100万円、合わせるとかなりの額が予想されているということですが、非常にですね、市民感覚でありますけれども、この金額は市民感覚からすると、持ち出しというふうに、非常に感じるころはありますので、ぜひともですね、跡地活用には大変期待するところでありますので、しっかりと進めていただきますようお願いいたします

次に移ります。この土地の建設から運営についての業者選定プロポーザルの結果、J O C A、青年海外協力協会に貸し付け候補者として決定したという報告がせんだってありました。もちろん厳正なる審査の結果と察します。そこで、(2)市の今後の計画について伺います。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）30年度につきましては、今年度予算、ただいま建設部長のほうから報告いたしました建設の予算を使いまして、用地の改良、道路拡幅整備でありますとか、上下水道ライフラインの整備などを行ってまいりまして、事業者の方の準備が整ったところで貸し付けの手続に入ってまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）貸し付けの契約を、そうすると30年度中に行いたいという考えでよろしいでしょうか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）市といたしましては、事業者の方の準備が整えば、30年度に貸し付けができればと考えているところでございます。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）貸し付け、30年度、できれば市としての考えで、今の段階で、考えで結構ですんで、建設時期、そして運用開始時期というところまでのイメージは持っているのでしょうか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）市として建物を建てるわけではありませんので、市としてのイメージというところではございませんが、事業者の方の御提案といたしましては、その後、貸し付けを受けた後に、測量などに入りまして、33年4月に向けて準備を進めたいというような計画でございます。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい。33年4月に営業開始に向けてということでよろしいですね。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）計画のほうはそのようにいただいております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）わかりました。次の質問に入ります。

(3)市民に対しての利用増進計画を伺う。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）この事業につきましては、民設民営で行っていただくものでありますが、市が目的として、要綱のほうで定めております認可保育所、また子育て支援センター、加えて障害福祉サービスなどの事業につきましては、市も積極的にPRをさせていただきたいと思っております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）積極的にPRをさせていただくということで今答弁をいただきましたので、非常に安心しました。運用の部分を含め、ぜひ丸投げして言葉悪いんですけども、丸投げにはしていただきたくないというふうに感じておりました。民間にはアイデアとネットワークがありますが、信頼というものが実は余りありません。逆に行政にはアイデアとネットワークが余りありませんが、済みません、民間ほどという認識でございます。しかし信頼が非常にあります。ですから、このお互いの強みを合わせて、営業展開を考えていながら、みんなが行きたくくなるようなすばらしい施設にしていくことが必要だと思っております。その辺の考えを最後にお願いいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）基本的には民設民営ということで条件を出してお貸しするわけでございますが、市としてはやっぱり子育て支援、そして障害者の人たちが集えるような場所でもあるし、高齢者の皆さんが楽しめるような場所と。そういったことでの提案をまとめておりますので、それらをどのように実現していくか、市でもサポートしながらですね、進めていきたいと考えております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい、わかりました。ぜひお願いいたします。

次の質問に移ります。3、駅を中心とする中央地域のランドデザインはどのように想定しているのか、伺います。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）市の都市計画のですね、総合的な指針といたしまして、昨年3月に岩沼市都市計画マスタープランを策定いたしました。御質問でございます駅を中心とする中央地域につきましては、地域別構想におきまして、市の顔である中心市街地と歴史伝統が調和する中央地域という地域づくりのテーマのもとですね、中心商業地エリアというふうに位置づけて進めているところでございます。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）そうですね。市、岩沼の中心であるわけですから、中心地という部分でしっかりちょっと考えていただきたいと思っておりますけれども、中央地域の、要は、これ私ちょっと考えたのは、パース図みたいなものをつくってみてはどうかというふうにちょっと考えてみました。今回、これらの地域にですね、今お話ししましたように公設跡地の件、そして亀塚第一住宅跡地というような形で、駅前もそうなんですけれども、さまざまな施設がこれから建ってくるわけですから、そういったところを、駅を中心としたランドデザインみたいな図をお示しするのも必要ではないかなというふうに思いましたので、その辺のお考えをお聞かせください。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）確かにわかりやすくですね、将来こうなりますというイメージ図というんでしょうかね。そういったものがあれば、皆さんいろいろ開発する側も、あるいは市も民間の方もわかりやすいというふうに思いますが、ただそれに至るまでにはある程度個別計画ですか、そういったものが、これはマスタープランなので大きな計画になりますが、その下のほうにある程度個別計画というのでしょうか。個別的な事業がだんだん出てきた。今回市でつくるのもありますが、そういったことを踏まえて、あるいはそういった民間でのその情報も踏まえて、将来的にはですね、そういったものを集合したイメージ図というのはつくっていただければいいのではないかなというふうに思いますが、今現時点ではまだそこまでは至っていないところでございます。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい。現時点では、まだないということですが、このランドデザインの提案について、最

後に市長の考えをお聞かせください。この図は、この図の中には、西部地区も一部、ちょっとね、含めていただきたいなというふうに、ちょっと考えております。線路を挟んですぐ西側、栄町地区であります。現在道路事情が変わり、交通の流れが変わってきています。人の流れも変化があらわれている中で、この地域は駅がこんなに近くて、交通量がそんなに多くなく、安全で静かで住みやすい最高の住宅地だというふうに私は捉えています。そんなイメージ図を描いていくことも市としての役目だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）ただいま建設部長が申し上げたとおり、現段階ではですね、都市計画マスタープラン、いわゆる大枠での計画ですね。駅の東ですね。これをこれからいろいろ市が進めている拠点整備をですね、中心に、駅前をこう考えていきたいと思っております。より具体化してくれば、また細かい計画をつくって、個別の計画をつくっていく必要があるんで、現段階としては、マスタープランでまずイメージをしていただくことが、までとしか考えておりませんので、またさらに進化させていきたいと思っております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）ぜひ視野に入れて、検討をお願いいたします。

次の項目に移ります。岩沼市農業委員会の取り組みについて伺います。

昨年、12月議会において、私の質問で、所有者不明土地問題について質問を行いました。この所有者不明土地問題で算定された土地の中には、遊休農地も広くかかわっております。平成28年4月に施行された農地法改正では、重点施策の1つに、遊休農地対策の強化が挙げられております。

そこで、今回は遊休農地対策についての質問と、今年度新たに任命された農業委員の皆様の取り組みについて質問を行います。

1、遊休農地対策について伺う。農業委員の取り組みと現状について伺います。

○議長（森繁男）農業委員会会長の答弁を求めます。佐藤勲農業委員会会長。

○農業委員会会長（佐藤勲）答弁を始める前にですね、この農業委員会法が改正されまして、去る2月19日に新たに選任されまして、農業委員会の会長を仰せつかった佐藤勲と申します。ひとつよろしく願いいたします。

それでは、お答えいたします。

ただいまの質問に関しまして、遊休農地につきましては、毎年農業委員全員で農地パトロールによる把握を行っております。また、対象となる農地につきましては、所有者等に対し利用意向調査を実施し、中間管理機構の活用を働きかける活動を行っております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）農地パトロール等々行っている中で、では、遊休農地の規模と状況はどれぐらい把握しているのでしょうか。

○議長（森繁男）佐藤農業委員会会長。

○農業委員会会長（佐藤勲）遊休農地の規模と状況については、事務局より回答させます。

○議長（森繁男）亀田明彦農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（亀田明彦）遊休農地の面積ですが、約40ヘクタール、農地全体に対する割合は約2.1%となっております。多くは、農地復旧困難な状態の農地です。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）これらの遊休農地の対策を、今後はどのように進めるのか、お聞きいたします。

○議長（森繁男）佐藤農業委員会会長。

○農業委員会会長（佐藤勲）今回の農業委員会法の改正により新設されました農地利用最適化推進委員が選出されました。この委員とともに、農地パトロールや利用意向調査を強化し、さらなる遊休農地解消による農地利用の最適化に取り組むたいと考えております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）農地最適化推進委員の皆さんと協力して頑張っていたきたいというふうに思います。

ホームページのほうでちょっと確認したのですが、農地最適化推進委員が今現在1名欠けているところ、募集を行っているのですが、これはもう決まった状態でしょうか。

○議長（森繁男）佐藤農業委員会会長。

○農業委員会会長（佐藤勲）最適化委員はですね、各地区の面積によりましてですね、東部地区に3名、それから西部地区に3名、それと中央部に1名ということで募集をしました結果、西部地区のほうでですね、まだ1名が不足しております。それで、さらに農協さん、それから土地改良区さんをお願いをいたしまして、1人を選出するように図っております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい、ぜひよろしくお願いたします。

今後、この問題は全国的に大きくなる一途をたどっております。農業法人、認定農業者の経営力強化を進め、遊休農地解消を進めていただき、そして農業法人への農地利用の集積が大変重要になってくると思います。会長の手腕に大いに期待をいたします。

次の質問に移ります。2、女性農業委員への期待について伺います。

○議長（森繁男）佐藤農業委員会会長。

○農業委員会会長（佐藤勲）現在もですね、農業の担い手として多くの女性が活躍しております。そのことを踏まえ、農業委員会へ女性の視点を入れることや、女性農業者の声を反映させること。さらに、農業と食をつなげることなどを期待しております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい。女性活躍推進法の観点からも大変重要なことだと思います。幅広い視野や視点でこれからの農業改革の推進に活躍していただきたいというふうに思っております。

次に移ります。

農業経営の分野においては、担い手不足やさまざまな経営課題を抱えている状況ではありますが、国においてもさまざまな施策で農業改革に取り組んでおります。農業は東北の地方経済のかなめとも言われております。私は、岩沼の経済のかなめでもあるというふうに考えております。そこで、最後の質問です。

3、新農業委員会では今後どのような方針で取り組んでいくのか伺います。

○議長（森繁男）佐藤農業委員会会長。

○農業委員会会長（佐藤勲）今回の農業委員会法の改正により、農業委員会の重点業務は農地の利用の最適化の推進と明確化されております。そのため、担い手への農地利用の集積、集約化、遊休農地の発生防止、解消などを推進していくことが、これまでよりも求められております。震災から7年が経過しますが、今や市内の水田の約8割が大区画化され、新たな農業法人なども多く立ち上がりました。震災から立ち上がった私たちの岩沼市の農業を、農業委員会としてもさらに強固なものとしていきたいと考えております。また、岩沼の農業の未来のために新たな体制で誠心誠意職務を全うしていきたいと考えております。

○議長（森繁男）菊地忍議員。

○2番（菊地忍）はい、ありがとうございます。会長の力強い言葉に感銘を受けました。ありがとうございます。

これは、最後に答弁の必要はありませんので、1つちょっと提案させていただきたいと思います。これからの農業経営を考えたとき、グローバルGAP、国際認証やJGAP Advance、認定農場といった制度の導入をひとつ検討していただければというふうに思います。これは産業界、工業界でいえば、ISOみたいなものでございます。国もこの認証制度の推進にますます力を入れていきますので、これからの農業を考えたとき、食の安全や世界に共通する農業経営を確立するための基準でもあります。ぜひですね、JGAP Advanceも視野に入れて検討していただき、この岩沼から世界のマーケットに拡大を図り、世界に誇れる岩沼の農業を確立していただくよう、議会の立場からもしっかりと協力していきたいというふうに考えております。

以上、今回の質問は会派を代表して中央地域の整備計画と農業委員会の取り組みについて質問を行いました。このまちの未来のためにしっかりと取り組んでいただくことを願い、私の質問を終わりにいたします。ありがとうございます。

○議長（森繁男）2番菊地忍議員の会派代表質問を終了いたします。

休憩をいたします。

再開は11時20分といたします。

午前11時08分休憩



午前11時20分再開

○議長（森繁男）休憩前に引き続き、会議を開きます。

引き続き、岩沼政策フォーラム、佐藤一郎議員の会派代表質問を行います。発言席において発言してください。11番佐藤一郎議員。

〔11番佐藤一郎議員発言席〕

○11番（佐藤一郎）続けて代表質問を行います。岩沼政策フォーラムの佐藤一郎です。私は、3項目について質問をいたします。

1点目なのですが、新火葬場の委託について、新火葬場の完成が待たれ委託運用が始まります。岩沼市斎場運転管理業務事業者選定プロポーザル実施要綱を見ますと、業務期間が平成30年4月1日から平成32年3月31日まででありまして、参加資格は岩沼市に本店を有すること、もしくは宮城県内において平成25年度以降に類する火葬等業務、指定管理者を含む実績があるなど7項目が条件であります。

1点目、公募型プロポーザル方式の参加業者は何社かお伺いします。

○議長（森繁男）市長の答弁を求めます。菊地啓夫市長。

○市長（菊地啓夫）新火葬場の建設については、施政方針で申し上げておりましたが、今年度完成に向けて、今工事を進めており、現状では95%の進捗率となっております。5月下旬の供用開始に向けて、準備を進めているところでございます。詳しくは市民経済部長よりお答えさせます。

○議長（森繁男）菅井秀一市民経済部長。

○市民経済部長（菅井秀一）参加業者につきましては、3社となっております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）はい。3社というプロポーザルが出ているということではありますが、それで2点目なのですが、入札に関してはですね、公平公正でなければいけません。2点目、プロポーザル方式の審査会の人員とメンバーの構成はどのようになっているのか、お伺いいたします。

○議長（森繁男）桂島和浩生活環境課長。

○生活環境課長（桂島和浩）岩沼市斎場運転管理業務事業者選定プロポーザル審査委員会の委員につきましては、5名でございます。学識経験者1名、市民が2名、市職員が2名の構成となっております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）その中のですね、学識経験者、どういう専門家であるか伺います。

○議長（森繁男）桂島生活環境課長。

○生活環境課長（桂島和浩）学識経験者につきましては、大学の教授でございますが、1級建築士で環境構想学科の教授でございます。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）はい、わかりました。

もう1点ですが、市民の2名といいますか、2名の市民の選択といいますか、選任はどのような選任で当たったのでしょうか。

○議長（森繁男）桂島生活環境課長。

○生活環境課長（桂島和浩）市民2名でございますが、お一人は岩沼市区長会の方、それからもう1名ござ

いますが、岩沼市婦人団体連絡協議会の方でございます。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）そういった方と、あと職員ということで、公正公平な審査を行っていると思います。そうしますとね、プロポーザル方式の、今多分審査中だと思うんですが、しっかりと審査をお願いしたいと思います。それで3点目なんです、今後のスケジュールはどのようにになっているのかお伺いします。

○議長（森繁男）桂島生活環境課長。

○生活環境課長（桂島和浩）2月26日の審査会におきまして、提案者へのヒアリングを行いました。事業候補者の選定がですね、行われましたが、その後に審査会からの報告を受けまして、事業候補者を決定しております。今後は、契約業者指名委員会の審議を経まして、入札を行いまして、3月中に契約を、締結を行いまして、4月から業務の委託を開始予定でございます。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）そうしますと、1社にもう決定したということによろしいんですかね。

○議長（森繁男）桂島生活環境課長。

○生活環境課長（桂島和浩）はい、1社に決定しております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）プロポーザル、最後にですね、多分選定の中身ですね、点数のいろんな採点があると思うんですが、その辺は後日ですね、決定した後ですね、そういう公表があるのでしょうか。

○議長（森繁男）桂島生活環境課長。

○生活環境課長（桂島和浩）業者の決定につきましては、契約を締結してからの公表とさせていただきます予定になっております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）ぜひ公表していただきたいと思います。

それとですね、5月下旬からの運用開始というふうになっていますが、正式には5月の下旬の何日か、その辺わかればお願いします。

○議長（森繁男）桂島生活環境課長。

○生活環境課長（桂島和浩）施設のほうは3月中に完成予定でございますが、その後外構工事などが入る予定になっております。その関係で、今現在におきましては、確実な日にちについてはまだ決定はしておりませんが、5月下旬を予定しております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）ぜひ5月下旬にですね、完成して、運用開始ということでお願いします。

次に移ります。高齢者対策について。2025年には団塊の世代が75歳以上となり、超高齢化社会となり、社会保障費が拡大することにより、国・県・各市町村が対策に取り組んでおります。

市長は、昨年の介護保険推進全国サミットinいわぬまは、地域共生社会へ向けて環境や人づくりによる地域包括ケアシステムの推進をテーマといたしました。施政方針でも新しい具体的に取り組む事項もあります。

1点目、高齢者を地域で支える共生社会づくり、(1)2月13日から運行したデマンド型乗合タクシーの運行状況についてお伺いいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）高齢者対策という大きな枠組みの中ですね、この高齢者を地域で支える共生社会づくりですね、これはこれから大変重要になるポイントとなります。

市としてはですね、このピークをですね、いわゆる高齢者のピークを2025年を目標にですね、対策を進めていくということで、その1つがデマンドタクシーであり、後で出てくる交流サロンもその大きなポイントとなるわけでございますが、これからいろいろ25年に向けて施策を展開してまいります。

御質問にありました、そのデマンドタクシーについては、担当部長よりお答えをさせます。

○議長（森繁男）菅井市民経済部長。

- 市民経済部長（菅井秀一）デマンドタクシーにつきましては、運行開始から2月末まで利用登録証を307名に発行している状態です。利用者につきましては、まだ7名ということで少ない状況になっております。
- 議長（森繁男）佐藤一郎議員。
- 11番（佐藤一郎）確かに2月13日から始まったばかりで、まだまだこう、市民に周知していないといえますか、まだ利用がちよっと、まだ見えてないのかなと思います。
- それですね、今7名という人が利用しているということなんですが、そうすると今後ですね、その利用者を何といえますか、再度周知しないといけないと私は思うのです。その辺はどのように考えているか伺います。
- 議長（森繁男）菅井市民経済部長。
- 市民経済部長（菅井秀一）いろいろですね、対策は考えております。1つがですね、デマンド車両をいたしました広報の運行、それから改めて登録者への呼びかけ、チラシの配布、さらにはですね、お試乗車教室等の検討も行っている最中です。
- 議長（森繁男）佐藤一郎議員。
- 11番（佐藤一郎）はい。わかりました。いろいろとですね、まだ市民、いろんなPRをしてほしいと思います。
- それですね、今回のそのデマンドタクシーについて、市民から要望等はなかったのでしょうか。それともそういう、こうして欲しいとか、そういうことはなかったのでしょうか。
- 議長（森繁男）菅井市民経済部長。
- 市民経済部長（菅井秀一）スタートしてですね、余り時間がないということで、要望的にはそんなに多くありませんけれども、幾つかありまして、まず1つが対象区域をもう少し広げられませんかということ。それから、指定の乗降場、場所を指定しておりますので、指定乗降場の数をふやしてほしいなどの御意見をいただいております。
- 議長（森繁男）佐藤一郎議員。
- 11番（佐藤一郎）基本的には健常者が乗るデマンドといえますか、市民バスといえますか、基本があると思うんですが、私もいろいろとですね、聞いたらですね、ある人はですね、自宅からその西部のお医者さんに行きたいんだと。そうすると、その手前のバス停で終わりだよということは、そこからまた歩くんだということで、その辺がですね、もう少しできればですね、老人に優しいといえますか、その辺を考えれば、そのバス停は決まっているんでしょうけども、その辺を何ていいますか、段階的にですね、その要望をもう少し、老人が使いやすいような、考えはないんでしょうかね。
- 議長（森繁男）菅井市民経済部長。
- 市民経済部長（菅井秀一）もともとですね、市民バスの補完機能ということで、高齢者の足の確保を基本としております。そのためですね、今後の利用状況、それから利用者からの御意見等を踏まえですね、より便利な仕組みとなるように、継続して見直し等考えていきたいと思っております。
- 議長（森繁男）佐藤一郎議員。
- 11番（佐藤一郎）はい。ぜひですね、利用者、例えばあの高齢者の方がここまで行ってほしいなとか、そういうのをなるべく聞いてほしくて、今後もですね、いろいろ御意見を聞いてほしいと思います。
- 次に移ります。2点目なんですが、高齢者交流サロンの取り組みについて伺います。
- 議長（森繁男）高橋広昭健康福祉部長。
- 健康福祉部長（高橋広昭）27年度から開始しました交流サロンにつきましては、これまで市内8カ所で開設されまして、30年度においては新たに4カ所の開設を見込んでおります。新たに交流サロンの開設を予定する団体などに対しましては、積極的な支援を行ってまいりたいと考えております。
- 議長（森繁男）佐藤一郎議員。
- 11番（佐藤一郎）今まで8カ所で、4カ所で、12カ所になりますね。それで、包括支援といえますか、バランスですね。西部、中央部、東部と、4つの区割りがあるんですが、そのバランスがどういうふうになっ

ているでしょうか。12カ所のバランス。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）この交流サロンにつきましてはですね、地域のバランスというよりは、高齢者が歩いていける身近な場所により多く開設していただきたいと考えておりますので、特にバランスまでは考えておりません。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）お茶飲みサロンといいですか、交流サロンは皆さんが気軽に集まってくれるところを、私も思っております。それで、PRするためには、その小学校区にですね、あるんで、できればばらばらとあって、それがこうふえていく。そういうような仕組みをお願いしたいなと思っております。そういう意味で、バランスというのは、私は申し上げたんであります。

それで、次に移ります。施政方針では、高齢者の地域で支える仕組みの構築について、ごみ出しなどのように高齢者が日ごろ感じている身の回りの困り事を解消でき、地域で安心して住み続ける仕組みの構築とあります。3点目ですが、地域共生社会づくり活動支援についてお伺いいたします。

○議長（森繁男）大友彰総務部長。

○総務部長（大友彰）はい。この事業につきましては、ただいま議員おっしゃいましたとおり、施政方針で30年度の取り組みとして行いたいと考えた事業でございます。高齢者の方が安心して暮らすことができる環境を構築したいという考えのもとに、身近な困り事については、地域で支え合いによって解消していくことができるよう、仕組みや土壌などの形成を行っていきたいと考えているところでございます。30年度におきましては、本市にふさわしいサービスのあり方や運営方法について検討してまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）30年度は今から検討するといえますか、ごみ出し、協力体制をつくと私は思うんです。それで、日ごろからですね、基本的には地域でこう助け合うのが基本だと私は思います。そうしますと、まず隣、隣組、近所、そして地域というふうに、こう広げていくと思うんですが、その辺の取り組み方として、まず今から検討すると言いますが、基本的にどういうふうにか、青写真といえますか、構想があるのか、その辺を伺いたいんですが。

○議長（森繁男）大友彰総務部長。

○総務部長（大友彰）この、高齢者の方への、その支援につきましては、これまでもですね、介護保険制度の中でとかですね、地域福祉計画の中でいろいろな取り組みがあったことだと考えておりますが、今回は29年度を持ちまして復興計画が満了することがございますので、復興から地方創生へという取り組みの中で、地域のコミュニティ、地域力というものを上げるためのひとつの何て申しましょうか、ひとつのその事業としてですね、このようなものを取り上げて、地域力の、こう育成のようなことに取り組んでいけないかというような角度から取り組もうと考えているものでございます。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）地域力といえますかね、地域で支えてくれるという言葉ではできませんが、どういうふうにか具体的に進めていくかということ、まだいろんな課題があると思います。ただ、私のイメージとしてはですね、やっぱりあの、何ですか、ごみ出しを手伝うとなれば、やっぱり隣の人、例えばやっぱりそういう手伝ってくれる人、そういう人が私は大事だと思います。ですから、基本的に交流といえますか、いつもこう、日ごろから会って、安心してお互いに信頼ができるというのが私は基本だと思いますので、まず最初はどうやってやるかといえますかね、今からいろんなことをやっていくんでしょうけども、そういう基本となる地域づくりをどういうふうにかしてつくるのか、例えば班ごとにするのか、町内ごとにかまず言うのか、その辺の考え方はどういうふうにかするんですかね。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）そうですね、今ヒントを出していただきました、本当に。班ごとにするか、地域のどういう単位でやるかというのは大きな問題でございまして、例えばごみ出しにしても班どおりには行っていない

わけですよ。ですから、その辺を今から検討して行ってですね、お年寄りが、自分の庭先から持っていつてもらえるような地域が望ましいと思っているわけですね。重いものを持って、ごみ停まで行けない。それが今、いろいろ地域からそういう声が上がってきていますんで、それを今何とかしようということでスタートさせた事業でございまして、これも地域共生社会づくりの1つでございましてね、国が掲げている地域の課題の解決をまず強化する。そういった中で、課題の1つとしてごみの出し方ですね。それを地域で支えるための方法ですね。隣近所でやってくれる、その地域であればいいですけども、その地区によって違うわけですよ。全く隣の人と面識がないとか、そういう地域もあるものですから、どうやったらうまくいか、それをこれから検討していきたいということでございます。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）はい、今まででもですね、コミュニティがあるような地区はいいと思うのです。コミュニティがまだないところとか、その辺は徐々にそういうふうに取り組んでいくと思いますので、まず地域でコミュニティづくりが本当にしっかりしているところを、まず中心にやって、そのほかのところをどういうふうに課題が残っている地区をどうするのかというふうに進めていくと思いますので、ぜひ1つでも、2つでも協力体制ができるようお願いしたいと思います。

次に移ります。

第6期では、平成26年度高齢化率がですね、22.3%となりました。それで、高齢者が9,800人となっております。第7期では、平成32年度であります、高齢者が1万1,600人で、高齢化率が26.8%と施政方針もありました。要は5人に1人だったのが、4人に1人が高齢者になるということになります。それで、介護給付費がですね、第6期では89億1,100万円、第7期では103億1,200万円でありました。今回までトータルしますと14億100万円が増加しております。要は、年に約2億3,300万円ずつふえている計算になります。要は、30年度から始まる第7期高齢者福祉計画、介護保険事業計画について、1点目ですが、地域包括ケアシステムはどのようになるのか質問いたします。①なんです、在宅医療と介護の連携についてお伺いいたします。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）第7期計画におきましては、国の指針に基づきまして、6期計画の深化と充実を図ることとされております。6期計画で取り組みました医療機関・介護サービスマップ、医療介護連携シート、多職種研修会などに加えまして、市民対象の在宅医療やみとりに関する講演会など関係機関との連携、協力をいただきながら取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）そうしますとね、医療と介護職員のそういう協力体制、連携というのが大事になっていくと思います。その辺で、医療と介護職員といいますか、介護福祉者のそういう協力体制、連携というのは今どのようになっているのでしょうか。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）まずですね、この在宅医療と介護の連携についてはですね、医療介護連携シート、例えば高齢者の方が入院するとか、退院するとか、そういった場合の情報共有のシートですね。そういった部分を活用したり、医療職、介護職、そういった部分の多職種の研修会、そういったものに今現在取り組んでおります。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）今までも6期ではいろいろ取り組んでおりますが、そうすると今度はですね、具体的に個人、個人といいますか、もっと具体的に介護者と連携してやるということになりますかね。そういうふうな感じなんですか。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）やはり高齢者がですね、地域で住んでいく、住み続ける、そういった部分については、その、どういうふうな医療サービス、介護サービスを続けていくか、そういったところが重要になっ

でございますので、医療と介護の連携については、いろいろと取り組んでいきたいというふうを考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）確かに難しい点はあると思います。やっぱり医療といいますか、お医者様と介護の福祉のほうの担当者と、こう連携してやらないと、情報が密にしていなくて、うまくいかない点もあると思いますので、ぜひその辺を密にとってほしいと思います。

2点目なんですが、生活支援サービスの構築についてお伺いいたします。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）生活支援サービスの構築については、6期の計画期間中に生活圏域ごとに配置いたしました生活支援コーディネーターを中心に、引き続き地域資源の発掘、さらには地域課題を抽出いたしまして、虚弱な高齢者に対する生活援助サービスやお買い物ミニデイ事業などの充実を図ってまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）そうしますと、地域で見守るといいますか、そういうふうになると。それとですね、お買い物支援といえますか、そうなりますとお買い物をどのようにこう支援していくのか。具体的に、例えばこういうふうなお買い物支援とかというのがあれば、お願いします。

○議長（森繁男）今田昌美介護福祉課長。

○介護福祉課長（今田昌美）はい、お答えいたします。

今先ほど部長のほうからもお話ありましたが、要支援の方たち、あるいは虚弱な高齢者の方たちにはお買い物ミニデイ事業ということを実際やっております。それは、送迎つきでヨークベニマルとかですね、食彩館のほうに行って、お買い物をし、レクリエーションをして帰ってくるというような事業になっております。

また、岩沼では今年度ですね、岩沼生活援助事業というものも始めました。それはですね、ヘルパーさんとかですね、そういった方たちにお買い物をしていただいたり、家事をしていただいたりというようなところで支援しております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）その中にですね、そうするとその何だ、元気に高齢者を見守るといいますか、支援する。そうすると、今のお買い物は有償ボランティアなんですか。どういうふうなボランティアなんですか。どういう仕組みなんですか。

○議長（森繁男）今田介護福祉課長。

○介護福祉課長（今田昌美）有償ボランティアというよりは、介護保険の中の地域支援事業でされておまして、御自分の御負担が、例えば生活援助事業であれば30分100円というふうの有料でお金をいただいているようなサービスになっております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）はい、30分100円という介護の料金ということになりますね。はい、わかりました。そういった形でいろいろ生活支援サービスを図っていくということでよろしくお願いします。

次に移ります。厚生労働省のデータであります。2025年には730万人が認知症高齢者となると予想されております。3点目、認知高齢者支援の推進についてお伺いいたします。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）認知症高齢者の支援につきましてはですね、29年7月に改正されました国の認知症施策の指針である新オレンジプランに即しまして、6期計画でいろいろと取り組んでまいりましたが、例えば認知症ケアパスであったり、そういったものを充実させましてですね、認知症になっても自分らしく安心して暮らせる地域づくりを推進してまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）その中にですね、オレンジプランの中にですね、ケアパス作成とか、認知予防とか、い

ろいろやっておりますよね。その中でですね、認知症を地域でこう推進するという項目がありまして、地域で推進する人たちを配置するという項目があります。その辺はどのように認知症の支援の推進員を選んでいくか、伺います。

○議長（森繁男）今田介護福祉課長。

○介護福祉課長（今田昌美）はい、お答えいたします。

認知症地域推進委員というものを各包括支援センター、4カ所に1名ずつ配置しまして、認知症の方、またその家族の方々に対して相談支援を行ったり、それから介護サービス、医療機関のほうにつなげていったりというようなことをしていただいております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）それですが、今までも認知症の人がどこかにいなくなったとか、そういう見守り隊のネットワークとか必要だということで、各企業の方も協力体制に今なってきておりますね。その辺で、認知症が何ですか、今までも各企業の人たちが応援していただいております。30年と、どういうふうにか、そういう応援隊といいますか、認知症になった場合に、いろいろと発見とか、そういうのあると思うんですが、どのように30年度は取り組むのか伺います。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）はい。これまでですね、認証高齢者に対する部分に限らずですね、高齢者に対する見守りという部分でいろんな事業所とですね、協定書を結んできております。当然30年度以降もそれについては拡大をしていくというのがありますが、そのほか徘徊高齢者に対してですね、協力員を募集いたしまして、メール配信によりですね、早目に発見する、できるというような仕組みも今取り組んでおりましたので、そういった部分も充実させていきたいというふうに考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）メール発信とかですね、あと新しい仕組みでお願いしたいと思います。

では、次に移ります。

介護士の不足が、いろいろと聞いております。それで、最近ですね、介護業者の大手が全国340カ所で撤退するという新聞がありました。市内の施設も介護士職員の募集とか、いろいろと見受けられます。

(2)介護士不足に対してどのような対策を講じていくのか、お伺いします。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）介護士不足といいますか、介護人材の確保、そういった部分につきましてはですね、国の施策のもと、県が行っております事業について、介護サービス事業者などにですね、十分にまだ認知されていないという状況もありますことから、市といたしましては、介護人材の確保につながるよう、県の介護人材確保事業等の情報をサービス事業者へ提供するとともに、積極的な制度の活用に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）あの、介護士不足はですね、ずっとこう何ですか、課題となっております。国もいろんな施策は講じておりますが、市としてね、市長ね、独自でこう考えるのも1つあるのかなと私は思っております。そういう人材確保のための施策は独自で考える、何ですか、なぜそうなのかというと、介護士を集めるために報酬のアップとか、そういうふうなことは考えていないのでしょうか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）人材不足という枠組みでお話をさせていただきたいんですが、看護師も介護士もですね、不足していることは事実でございまして、これはですね、根本的な部分の議論をしないと、いわゆる川上対策をしてもらわないと、我々のところで各看護師、介護士についてのね、具体的な中身について踏み込めないところがありますので、ぜひ国のほうにもいろいろ働きかけをしていきたい。そう思うてございます。市独自でですね、加算するという事は今考えておりません。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）はい、いろいろとですね、今までの部長の話もあったようにですね、いろんな施策をやっていないといけないし、検討、連携もしないといけないし、その辺でぜひお願いしたいと思います。

(3)の次、予防対策、介護予防策はどのように講じていくのか伺います。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）介護予防につきましては、継続することで予防効果が増大する、増大してまいりますので、引き続き介護予防講座や健幸いきいき広場、介護予防サロンなどの事業、そういったものをより多くの市民に参加いただきまして、継続しやすい環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）確かに介護予防というのは物すごく広くて、対応が大変だとは思いますが。ただ、1つは、介護予防としてまず自分で、まず意識して行動するというのが1つだと思います。それで、どこかのいきいき広場とか、あとデイサービスに積極的にいくとか、そういう参加が私は必要だと思います。それで、生きがいづくりが1つの予防かなと思います。それで、今問題になっているのは、そこに参加しない人、閉じこもりの高齢者をなくす、そういう政策はどのように考えているか、伺います。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）なかなか、その閉じこもりの方をですね、外に出すというのは大変難しいところではあるんですが、これまでの取り組みではですね、交流サロンなどそういった部分でですね、閉じこもりの防止、地域の方の声かけ、そういった部分でですね、取り組んでまいっておりました。そういったところをですね、さらに7期においては充実をさせていきたいというふうな考え方でおります。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）やっぱり今までですね、人口がある程度把握できる部分はよかったと思います。そして今後はですね、2025年になりますと、本当にこう、地域でも支えるのも物すごく広がっていくと思います。そうすると、閉じこもりの人がどこどこ、あとこの人がどうなんだべという意識と伺いますか、交流できるような政策をつくっていかないといけないと思いますので、ぜひにですね、その辺も閉じこもりを少なく伺いますか、ならないように政策を考えてほしいと思いますが、その辺でどういう政策を今考えているのか、伺います。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）お話し申し上げますと、趣旨からちょっと外れている部分があるかと思いますが、できるだけお答えするつもりで聞いておりましたが、今後の対策という形でですね、お話をさせていただきますと、我々は今この学区ごとにですね、地域包括支援センターを設置しているわけですね。市ですと4カ所ですね。そこを中心にいろんな策を今講じているわけです。例えばいろんな出前講座とかですね、いろいろアドバイザーを配置したり、高齢者、認知症も含めてその何とか地域でですね、早く見つけて、そして早く治療にも入ってもらいたいというようなことがありますので、そういったセンターを中心にやっというものが、今の大きな政策として捉えておまして、まずは地域で守っていただいて、それで問題が出れば包括支援センターに相談していただいて、どんどん対策をとっていく、上に上げていくということが、今大きな流れになっておりますので、それを中心にやっていきたいと思っております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）はい。ぜひそのように守っていききたいと、守っていただきたいと思っております。

次……。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員に申し上げます。代表質問の途中ではありますが、残りの代表質問は休憩をいたしまして再開後に継続したいと思いますので、御了承願います。

それでは、休憩をいたします。

再開は午後1時といたします。

午後0時休憩



午後1時再開

○議長（森繁男）休憩前に引き続き会議を開きます。

佐藤一郎議員の会派代表質問を継続いたします。佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）では、子育て支援について、岩沼市に住みたい、子育てしやすい岩沼のイメージがあります。

1点目ではありますが、保育所の建設と運営について、①東部地区子育て支援拠点施設の建設と運営について伺います。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）東部地区子育て支援拠点の整備につきましては、東保育所の再建に合わせて、子ども、子育て支援センターを整備するものとなっております。

運用につきましては、子ども福祉課長よりお答えいたします。

○議長（森繁男）石垣千佳子子ども福祉課長。

○子ども福祉課長（石垣千佳子）東保育所につきましては、待機児童の解消を図る観点から、定員を60名から震災前の90名に戻すとともに、震災後休止していた一時預かりも定員10名で再開する予定です。

子育て支援センターにつきましては、乳幼児及び乳児を育てている家庭などの育児不安の相談支援や子育てサークルなどの育成など、東部地区における子育て支援環境の充実を図っていききたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）29年の3月1日現在ですね、調べたら61名が今度90名になるということで、90名になるということは、保育士も今後ふやさないといけない。その辺の考え方をお願いしたいと思います。

○議長（森繁男）石垣子ども福祉課長。

○子ども福祉課長（石垣千佳子）保育士の定員、人数もふやす予定でございまして、一時保育の保育士も全て含めて22名の職員を確保する予定としております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）次に移ります。亀塚第一住宅跡地を活用した保育のあり方と子育て支援の方針について伺います。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）亀塚第一住宅跡地の保育所につきましては、現在の亀塚保育所の機能を引き継ぎまして、定員90人規模と考えております。併設する子育て支援センターにおいては、子育てしやすいまちづくりの推進に向けて民間ならではのアイデアを盛り込んでいただき、北部地区における子育て支援環境の充実を図っていききたいと考えております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）はい。ぜひ北部地区の子育て支援施設としてお願いしたいと思います。

次に移ります。2番目の子ども医療費助成制度について、(1)27年10月から中学生まで拡大した助成金額と受給者数を伺います。

○議長（森繁男）高橋健康福祉部長。

○健康福祉部長（高橋広昭）平成27年10月から対象を拡大したことによる助成額につきましては、その後ですね、28年10月から所得制限限度額の見直しを行っておりますことから、一概にこれまでの増加分を計算するわけにはちょっといかないものですから、拡大前の1年間と拡大後の1年間、そこでの数字の比較ということでお答えさせていただきたいと思っております。

28年9月診療分までの1年間での助成額につきましては、3,256万円の増、受給者数につきましては、28年9月1日現在で1,209人の増となっております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）1年間で約3,000万円という数字と1,200人の人が対象になったということでございます。

それですね、(2)の周辺の自治体は、18歳まで拡大しております。本市も検討すべきではないか、伺いま

す。

○議長（森繁男）菅原亜由美健康増進課長。

○健康増進課長（菅原亜由美）子ども医療費制度につきましては、これまでも支給対象年齢の拡大や、所得制限の緩和を行いまして、子育て世代の負担の軽減を図ってまいりました。18歳までの拡充につきましては、現段階として考えておりませんが、県内の各市との格差が出ないよう、状況把握に努めたいと思っております。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）18歳までの医療費の助成については、既にですね、山元町、ことし4月から亙理町が拡大し、市では東松島市が所得制限があります。塩竈市、角田市、多賀城市、富谷市、また県も補助拡大を後押しするとあります。早期に検討すべきでないか。これは市長から答弁願います。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）子ども医療費についてはいろいろ考え方がございまして、これまで未就学児に対して助成、県で助成していただいたわけですが、枠の拡大をしていくと国のほうからのペナルティーという措置があったりするわけですね、内容によってはですね。ですから、それらをしっかり見きわめて、ほかと遜色のないようには考えていきますけれども、今の段階では、今所得制限を緩和したばっかしなもんですから、さらに状況を見ながら対応してまいりたいと思います。

○議長（森繁男）佐藤一郎議員。

○11番（佐藤一郎）はい。状況を見ながらといってもですね、周辺、主な市もそういうふうに拡大していますので、ぜひお願いします。

以上で終わります。

○議長（森繁男）岩沼政策フォーラム佐藤一郎議員の会派代表質問を終了いたします。

引き続き、岩沼政策フォーラム沼田健一議員の会派代表質問を行います。発言席において発言してください。16番沼田健一議員。

〔16番沼田健一議員発言席〕

○16番（沼田健一）会派代表質問、4人目であります。さきに通告いたしております点について質問いたします。明快な回答をお願いします。

1点目、東日本大震災における復旧・復興事業の総括についてであります。

あの東日本大震災から8年目を迎えようとしております。岩沼市はいち早く岩沼市震災復興会議を開催し、岩沼市震災復興計画グランドデザインを決定、岩沼市震災復興計画マスタープラン、そして復興のためのリーディングプロジェクト7項目を発表、平成23年から29年までの7年間と決定し、復旧・復興に取り組みました。策定から2年後、各分野の事業も進展したことから、さらに今後取り組むべき方向性を明確にするため、各個別事業の進捗状況を検証、分類し、その結果を踏まえ、7項目のリーディングプロジェクトを4項目の重点項目に再編し、27年度に評価結果を行っており、最終年度が終わろうとしています。どのように検証し、総括しているか伺います。

まず最初に、(1)被災者の生活支援と住環境の整備について伺います。

○議長（森繁男）市長の答弁を求めます。菊地啓夫市長。

○市長（菊地啓夫）震災復興については、いろいろ御協力をいただいておりますことから、この内容につきましては、しっかりこれからと、これまでとですね、これから先についてしっかり説明していきたいと思っております。

まず、御指摘のとおり、平成23年9月にマスタープランを策定いたしました。7つのリーディングプロジェクトを表に出して、それを中心に進めてきたわけございまして、2年後に、平成25年9月にですね、進捗状況をもう一度確認をしまして、発展期に向けて、取り組むべき方向性、あるいは見直しも含めてやってまいりまして、4つのリーディングプロジェクトにまとめたところでございました。

それで、今回お聞きの被災者支援と住環境の整備という具体的な中身でございますが、事業としては5事

業あったわけでございます。それについては100%進捗しておりますので、これを今度、さらに再評価をいたしましてですね、項目ごとに再評価をしまして、前に進めていきたいと考えてございます。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）はい。これが一番被災者にとっては重要なことだと思っておりますし、100%、トップランナーとしての位置づけを岩沼市としては、被災者支援については評価をしたいと思えます。

次に、減災を基本とした安全・安心なまちづくりをお伺いいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）これもですね、リーディングプロジェクトの柱の1つでございますが、事業としては9事業ございます。その中には東保育所とか子育て支援センターなどが、あるいは排水対策事業ですね。この中に入っておりますが、今言った東保育所、子育て支援センター、排水機場がまだ未完成というところで、これからまた進めていく必要があるんだろうと思っております。これらの事業については、国と県の連携事業になりますので、引き続き、国は10年ですので、我々7年のギャップが、3年のギャップがあるわけですから、これらをしっかり見きわめた上で進めていきたいと考えてございます。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）はい。評価としては、何%ぐらいの評価を考慮しておったんですか。お伺いします。

○議長（森繁男）大友康弘復興創生課長。

○復興創生課長（大友康弘）ただいま市長から申しあげました9事業の中で4つの事業、防潮堤の整備ですとか、市道沿線の盛り土等事業等につきましては100%完了しているの見込んでおります。ただいまもございましたが、東保育所の建設等、まだ来年度にかかりますので、その辺が7割行くか行かないか程度と思っておりますので、全体として8割から9割程度かなというふうに思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）はい。今進行中のものもありますので、着実に実行していただきたいと思えます。

次に、(3)産業の振興と新産業の創出についてをお伺いいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）事業としては10事業あったわけでございます。この中で、まだ未達成なものが矢野目西の区画整理事業、そしてほ場整備事業がまだ北部で残っておりますので、それらをずっと比較して、割合と言われれば、70%ぐらいは進んでいるかな。70から80ぐらいですね。そんなことで今大至急、矢野目西の開発とほ場整備を進めているところでございます。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）後でも質問するような形になりますけれども、これは今後の岩沼というような点においては、非常に重要な施策の1つになるかと思えますので、これらについても残り30%というようなことでありますので、その点についてもしっかり着実に実行していただきたいと思えます。

次に移ります。震災の伝承と歴史的景観の保全についてお伺いいたします。

○議長（森繁男）大友彰総務部長。

○総務部長（大友彰）震災の伝承と歴史景観の保全につきましては、国による海岸防潮林の再生、県による貞山堀の松林の保全等に取り組んでいただいておりますが、県が国に設置を要望している、仮称でございますが、地震・津波防災ミュージアムについては、現在のところ実現されていないという状況でございます。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）はい。この防災ミュージアム、これは、後でこれもまた質問出しますけれども、空港周辺対策の1つとして、岩沼市にそのようなコアな施設をつくるというような、覚書にもあったんでありますけれども、これらもやっぱりこのような震災というのは、もう二度と起きてほしくないし、そういう、あとまた万が一起きた場合のいろんな施策にも影響してくる、そういう思いでございますので、それらについては今後どう検討していくのかお伺いします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）この関係につきましては、国・県の状況をしっかりと見定めさせていただいて、必要な対応をさせていただければと考えております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）それでは、2番に移ります。

ただいま1から4までリーディングプロジェクトについて進行状況をお話をさせていただきました。これらについて、これらとか今までの反省を踏まえて、今後の市の発展にどうつなげるか。これはやっぱり、非常に重要な点がままあるのかなと思っておりますので、この点について今後、今まで計画して決まっていな点、実行していない点も踏まえて、今後これらをどう生かすのか、お伺いいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）いろいろ、プロジェクトについて、4事業についていろいろお話をさせていただきましたけれども、今後の課題もあるわけでございます。課題としましては、防災集団移転促進事業で取得した土地の、やっぱり元地の活用、それからかさ上げ道路、排水機場など新たに整備した公共施設のですね、維持管理が今度は次の課題として捉えておりますし、または今進めております開発を行った用地のですね、企業誘致、雇用の場をつくることといったことも大きな今後の課題、課題というかですね、早急に対応しなければならない部分でございまして、復興事業で実施した事業について、もう一度評価をしてですね、しっかり方向性を見定めていきたいと。そういう今考え方でありますが、ハード面とソフト面がございまして、これからはソフトの部分、特に、心のケア的な部分をしっかり取り組んでいかなければならない、そう思っております。

あとは、地域共生社会という、高齢者も子どももですね、それから障害ある方も、ひとつ大きなまちとしてつくっていききたいというふうな、そういう方向性も今後実現していきたいと考えておりますので、復興から地方創生、そして住みやすいまちづくりにこうつなげていこうと、そう思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）岩沼市単独ではどうにもならないというような点もあろうかと思えます。国の方針、ことし総理大臣のほうから発表されたんですけども、その中でも東北の復興なくして日本の再生なし。そしてその決意のもとになりわい復興、心の復興に全力で取り組むというようなことで、その部分、なりわいの点だと思えますけれども、矢野目の開発についてもいろいろなコンサルとか、いろいろな面との協力、または企業誘致で国・県に対する要望、また先ほど言ったミュージアムの面、また元地、震災の……、我々がなかなか住めなくなった土地の今後のあり方、いろいろな面でどうしてもそういうハード面の対応が、市単独ではなかなか厳しい点もあろうかと思えます。その点についての市長の運動というか、国・県に対しての運動については、どのように今後行っていくのかお伺いします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）大変難しい問題なんですけども、まず何度も言うようなんですけども、復興計画は岩沼市で7年ですね。国・県が10年でございまして、3年のギャップがあるわけです。これをですね、岩沼市は国の動き、県の動きを見て、岩沼にも適用できる部分があれば、その中でいろいろ復興と結びつけてやりたい。いわゆる何て言うんでしょうね、その持続的な、復興から持続的な発展に向けていく段階の3年間と捉えているわけでございまして、しっかりそこはこれから見据えていかなければならないと思っております。特に、なりわいについてはですね、矢野目西の工業団地を中心にですね、雇用の場を確保していくということで、これもできるだけ早く企業に提供していきたいし、もちろん企業誘致も進めていくという考え方でござい

ます。それから、もっと大きな問題は、何度も言うようになりますけれども、公共施設を整備したポンプ場とかですね、道路とか、あるいは橋もそうなんですけども、いずれ必ずこれがメンテナンスをしながら、リニューアルしなければならないという時期が来るんだと思います。そういったところ、しっかり見据えて国のほうにですね、そういった次の段階を要望していかなければならないんだらうと思っております。まず、維持管理費、ランニングコストも大変な金額がかかりますので、そういった総合的な、やっぱり今後の東部地区の維

持、公共施設の管理を考えていく必要があるんだろうと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）あのような施設をつくれば、やっぱり維持管理経費というのはどうしてもものしかかってくる問題でもありますので、それらの経費についても何らかの形で、国土保全でありますから、国・県に要望しながら対応していただきたいと思えます。

3番目、被災者の心のケアについて、今後も支援を継続していくのか。これ、国の方針の中の心の復興の分にもかかると思えますので、これらも市単独ではなく、国なり県なりとともに対応していくのか、いかなのか、お伺いします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）心のケアって本当に難しいと最近思っているんですが、いろいろ孤独死から心的外傷性、いわゆるPTSDの関係もあるしですね、それから家族を失った方の本当の悲しみって、今から思い出されるんだろうと、生活が落ちついた段階です。そういったこともあるし、阪神・淡路大震災においてもですね、5年目、6年目ぐらいから、そういったその希望をなくしてしまって自殺をする方も結構いたようございまして、それを踏まえて国もこれから先、どのぐらい続くかわかりませんが、サポート、被災者のサポートをしていこうという方針を出しております。ですから、我々もそれを見ながらですね、国の動きを、支援をしてくれる動きを見ながら、我々もあわせて被災者の、被災者に最後まで寄り添っていきたくて、そう思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）このような地域を、支え合いの情報というような、情報誌なども出て、被災地におけるコミュニティの活動の場という、いろいろな形でいろいろな人たちがサポートしております。これは心のケアでありますから、お金を幾ら出してもどうのこうのという問題ではないんですけども、やっぱりつながりを大事にするような施策を今後ともお願いをいたしたいと思えます。

次に、仙台空港民営化について伺います。

仙台空港は、平成28年7月の1日に、国管理空港では全国で初めて完全民営化された空港です。民営化され、岩沼市としては岩沼市とのかかわり方が問われると思えます。施政方針でも市長は、市として空港周辺地域の企業誘致に、そして交流人口の拡大を示されておりますが、そこでお伺いをいたします。

1番、私は2年前にも同じような質問をしております。今までの県との覚書について、その後進展はしているのかどうかお伺いをいたします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）覚書の内容についてですね、お尋ねでございますが、私としてはおおむね計画どおり実施していただいているという評価をしております。

まだ実現できていない部分もあるわけでございます。アクセス鉄道等、岩沼市に延伸するという大きな約束があるわけでございますが、これらを含めましてこれから県のほうに申し込みを、この内容についてですね、確認をしていく必要があるんだろうと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）その覚書の中でも非常に大きな問題でありまして、岩沼市の発展にかかわることだと思えます。地域住民、または覚書を交わした当事者とすれば、これはやってもらえるんだと。仙台空港が滑走路延長、または運用時間の延長というような約束のもとで実行していただけるものとして覚書を交わし、運用時間なり滑走路延長に賛成をしているわけでもありますので、その点については完全にやっぱり実行を履行していただくように、強く県に言うてはどうかと思えますが、市長、その点お願いします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）そうですね、私も当時いろいろな内容についてはよく精査をさせていただきまして、覚書を十分知っているつもりでございます。しかしながら、今ですね、民営化になりまして空港機能の拡大とか、さまざまな話が出ているわけございまして、これまでの約束を踏まえながら、新たにこう発展していくと

いうことを願っているわけございまして、引き続き確認、覚書の内容を確認しながら、慎重に進めていきたいと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）ぜひお願いをいたしたいと思っております。やはり鉄軌道の延伸というのは、東部地区においては非常にポイントとなる事業でありますので、これは何としてもやっていただきたいと、こう思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

次に、民営化になり1年半足らずであります、仙台空港は着実に発展していると思っております。市に対するメリット、デメリットは検証しているのか伺います。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）この空港の発展に伴い、メリットといたしましては、空港利用客の増が交流人口の拡大につながる機会であろうと。また、企業誘致の呼び水にもなるというふうと考えております。また、デメリットといたしましては、どうしても航空機騒音による周辺環境への影響というところは避けられないのかと考えておりますが、具体的な検証といたしましては、現在のところ、至っていない状況でございます。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）はい。やはり仙台空港というのは年間340万人も乗りおりする空港になったということなので、そういう意味では空港というのは東北の中でナンバーワンだし、羽田空港を経由しないでそのぐらいの乗降客があるというのは、これは日本一だと私は思っております。そういう中であって、やはり岩沼市としても、どうしてもメリットをつかむ必要があると私は思っております。その中で、それらに対することについて、やっぱり検証をしっかりとね、そして対応し、そして岩沼市のメリットを勝ち取るというのが、やっぱり政治的にも行政的にも必要かなと私は思っておりますので、その点について今後どう検証していくのか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）民営化になり1年足らずという短期的な見方が主な見方でございますが、これまで空港が発表した利用者数を見ますと、過去最高の利用者だということが出ておまして、民営化については順調にきているんだろうと。そんなような評価をしております。

市としては、この仙台空港を中心にですね、ともに発展していきたいと。地域もやっぱり発展していかなければ、本当の意味で民営化になって活性化したとは言いきれないんだろうと思っておりますので、これから空港がさまざまな提案をしていく中で、地域もしっかりそれに参加させていただきながら、連携して空港の発展、そして我々の発展とつなげていきたいと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）民営化する際にですね、県で、県なり会社でこのようにいろんなパンフレットで大変バラ色のパンフレットをずっと出しているんです。やはりこれらのバラ色を、岩沼市も甘んじて受けなきゃいけないかなと私は思っています。やはり空港が飛躍、発展するのであれば、市も周辺地域も名取市と一緒に飛躍、発展すべきだと思っておりますので、そういう点についても今後とも対応していただきたいと思っております。

3番目に入ります。県提案の中で、民間の知恵を生かした地域住民、関係事業者との連携とあります。その後、それらに対するアクションがあったかどうか。これらについて、皆これに書いてありますので。

○議長（森繁男）遠藤大輔政策企画課長。

○政策企画課長（遠藤大輔）はい、お答えします。

仙台空港の民営化後における仙台国際空港株式会社と各種団体との連携につきましては、仙台空港国際化促進協議会を中心といたしました官民連携によるエアポートセールスや、地元の産業界との連携による仙台空港初の食品等の輸出促進策などに取り組まれていると伺っております。

そのほか、これまでですね、空港環境整備協会が実施してまいりました事業を引き継ぐ形で、空港周辺地域の活性化に寄与すべく、地域住民の方々との連携に取り組んでいただいているというところでございます。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）課長はそのように申しますけれども、受け取る側としては、決してそう思っていない。そういうことですので、県とか会社に、我々からするとこびを売るような形に見えますので、決してそうは思いませんので、これらをきちっとやはりアクションを起こして、こちらから対応していくというほうにしなければ、住民としては納得し得ないし、今後いろいろな、後で話しますが、時間延長問題も出てきますので、それらのことを踏まえた場合ですね、なかなか厳しい状況になるのかなと思っていますので、今後とも対応していただきたい。

次に、仙台国際空港株式会社は空港を地元（市）の総合計画に位置づけてほしいとのことでありますが、市の方針を伺います。

○議長（森繁男）遠藤政策企画課長。

○政策企画課長（遠藤大輔）はい。民営化を果たした仙台空港につきましては、当然岩沼市のまちづくりの上で大きな可能性を持つ貴重な財産であると捉えております。つきましては、広域観光戦略に明確な位置づけを行うなど、空港との連携を強化して、さらなる交流人口の拡大に努めてまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）交流人口の拡大っていうのは、通過するだけではどうにもならないんです。やはりそこにとどめおいて、そして少しでも岩沼市の地域の発展につなげるような施策に持ってこない、その交流人口拡大でいいなんて思っていて、逆に交通の、交通の量が多くなったり、問題点ばかり多くなるんですね。だから、ゆっくり歩いて、ゆっくりいろんなものをおろして歩いて、とどまって、そしておろして、そういう施策を空港とともにやらなければならない、そう思います。そうなった場合に、それらの会社とのいろいろな話し合いなり検討会なりを、どう今しているのか、それをお伺いします。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）県及び会社のほうとはですね、そこまでの計画検討には至っていないところですが、市といたしましては、ただいま議員おっしゃいましたとおり、岩沼市を通過していただくんでは、空港が岩沼の全くメリットになりませんので、岩沼に少しでも滞在していただくために、仙南4市9町のDMOでの取り組みですとか、そのような計画の中で、少しでも広域の中で岩沼の位置づけをしてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）先ほど部長も、交流人口の拡大がメリットだというようなことを言っておりましたので、私はメリットではなくデメリットだと、こう捉えて、空港と岩沼市がともに発展する対応を、市側でも、片一方は民間ですけども、市側も対応していただきたいと思います。

次に、県は運用時間の延長も重要な課題であるし、検討する必要があると考えておりますが、市に対して話はあるのか、ないのか、伺います。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）はい。運用時間の延長でございますが、今のところ、県から具体的な申し込みとしてはありません。しかしながら、空港機能の拡充とか、宮城県における観光戦略の中に空港が位置づけられているとかですね、将来に向け仙台空港を活用していこうと、機能を拡充していこうというような動きが見られますので、その中ではやっぱり時間延長も重要な課題であるという認識でおります。県の観光産業の戦略を、これをしっかり見ていき、仙台空港とともに我々も発展していきたいと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）県の説明の中にもね、2ページを割いて、この運用時間延長というのを、まず乗降客をふやすこととか、いろいろな面において延長を最初から持ちかけられているんです。これは去年の、28年11月4日に出しているんです、県のほうではね。これは何を意味するかというと、今後時間延長して、飛行機を、便数をふやし、そして乗降客を多くして仙台国際空港株式会社の利益を生むというようなことにつなげ、または地域の発展につなげるというような内容であると私は理解しておりますけども、やはり岩沼市、名取市に話をしないで時間延長というの、私はあり得ないと思いますので、それらについても今後どのようにア

クッションを起こしていくのか、お伺いをします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）県中心にですね、宮城県の観光戦略、そして東北の観光戦略が練られているようでございます。当然地元もいろいろ意見を申し上げたいと思っておりますが、まだ具体的な中身に至っておりませんが、どうしても海外からの外国人のですね、旅行者をターゲットにしているという部分がございます。インバウンドという言い方をしているんですが、そういった方々を中心に、これから仙台空港を中心にですね、誘致していこうという動きがございます。そうした場合、やっぱり空港自体のですね、機能の拡充が求められますので、そこは県と、それから国際、仙台空港……、仙台国際空港株式会社としっかり話をしていきたいと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）これは住民の生活にも、今後いろいろな面でかわりを持つと思いますので、そうなった場合にもう議会の対応が非常に重要なことになるのかなと思っておりますので、それらについても今後いろいろな面で注視をしていただきたいと思います。

次に、次の観光政策に移ります。次に、観光振興策の中、広域観光戦略についてを質問いたします。

国は、日本を訪れた外国人観光客は5年で過去最高を更新し2,869万人になり、地方を訪れる観光客は2倍のペースでふえております。観光立国は地方創生の起爆剤でもあるとも言っております。またIR、統合型リゾート施設（推進法）に基づき、日本型の複合観光施設整備のための実施法案を提出し、依存症対策など課題に対応しながら、世界中から観光客を集める滞在型観光を推進していくとも言っております。そういう中であって、1番、国の観光戦略と現状をどのように認識しているのかお伺いします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）国のほうではですね、観光立国としての取り組みを平成15年からしているわけでございまして、インバウンドに取り組もうと。訪日外国人をターゲットにしているわけでございまして、それが平成28年度には2,400万人を突破しているという現実もございますので、着実にそういった国の観光戦略が推進しているんだろうと思っております。しかし、東北を訪れる観光客についてはこれからだと思っております。まだまだインバウンドに対するですね、アピールが足りないんだろうと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）そのインバウンドも我が会派ではずっと誰か質問しておりますので、同僚議員が何回か質問しておりますので、今後とも先ほどの仙台空港民営化との整合性をとりながら、岩沼市発展につなげていっていただきたいと思います。

2番、東北、宮城県の観光戦略をどのように認識しているかお伺いします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）宮城県ではですね、宮城観光戦略プランというものを策定しております。その中にですね、仙台空港の民営化等を1つの契機として、東北のゲートウェイ、いわゆる東北の玄関の役割を果たすということで広域観光の中心に置いているわけでございまして、今後またインバウンドの加速化が進んでいくんだろうと。そして、徐々に経済効果も出てくるんだろうと、そういう期待をいたしております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）やはり岩沼市は東北本線、常磐線の分岐点でもあるし、交通の要衝でもある。そして、東北に出かける人は東周りすると、必ずここを通過していくというような場所にもありますので、今後ともそれらについてしっかり地についた施策を、お願いをいたしたいと思っております。

次に、民間の動きはどうかをお伺いします。

○議長（森繁男）菅井秀一市民経済部長。

○市民経済部長（菅井秀一）はい、お答えします。

県内では外国人観光客の誘客に向けた3つのDMOが設立されております。このように民間組織における広域観光に向けた機運が大変高まりつつあります。また、仙台松島エリアを対象としたDMOの組織が3月

下旬の設立を目指しているということで、広域でのプロモーション、それから観光商品の開発、観光に携わる人材の育成等、ますます観光の広域化、これが進むものと考えております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）さまざまな民間のDMOなり、そういう組織があると。そういう中であって、やはり民間ではどうしても対応し切れないというような点もありますので、それら民間と市でタイアップ、どのような形で今後行っていくのかお伺いします。

○議長（森繁男）菅井市民経済部長。

○市民経済部長（菅井秀一）当然民間と行政のタイアップというのは大変必要なものだと考えております。先ほど言いましたDMOの中でもですね、岩沼市もかかわっておりますので、その中で岩沼市の地域資源等ですね、十分に説明しながら、その中で生かしていきたいというふうに考えております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）今の答弁を受け、4番になるのかなと思っておりますが、さまざまな動きを踏まえた市の観光戦略と現状についてはどうかお伺いします。

○議長（森繁男）菅井市民経済部長。

○市民経済部長（菅井秀一）はい、お答えします。

国、県、民間とそれぞれの立場から観光にアプローチしております。いずれもですね、議員おっしゃるとおり、連携、協力を重視しております。岩沼市におきましても、観光ルートの構築、それから2次交通の充実、観光客の受け入れ環境の整備などに取り組んでおりますが、これにつきましても近隣市町、それから民間組織との連携、広域観光を基本に観光戦略を進めたいと考えております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）何回も言いますが、交通要衝にある岩沼市の利点を生かしながら対応していただきたいと思えます。

次に、東北の玄関口である仙台空港が所在するまちとして、広域観光の底上げに取り組むべきと考えますが、どうでしょうか。どう考えますか。

○議長（森繁男）菅井市民経済部長。

○市民経済部長（菅井秀一）はい、お答えします。

広域観光につきましては、本市の観光行政の基本的な方針であります。そのため、広域観光の底上げ、充実を引き続き取り組むべきであるというふうに認識しております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）はい。立派な方針を持っていますので、その方針を具体的な施策の中に取り込んで、市民なり市が直接かかわることができて、発展させる施策と市は考えておると思えますので、それらについてやはり具体的な対応というのはどう考えますか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）先ほどからいろいろ御指摘をいただいております。ただ利用者がふえただけではだめだろう。どうして岩沼の経済につなげていくかという具体的な提案を求められているんだと私は思います。

そこで、空港所在地として単なる通過車両ではなくですね、ここを1つの起点としてとめ置くようなですね、産業の形を整えていかなきゃないんだろうと。例えば、例えばですね、食事どころとか、日本食とか、あるいは食事において個性を持たせるような、そういった岩沼市の戦略とか、あるいは体験ができるとかですね、おみやげも日本ならではのおみやげがここだったらあるというような、そういうですね、少し特化した戦略を立てないと、岩沼ではなかなか旅行客をとめ置く、あるいは経済効果に直接つなげるというのは難しいんだろうという意識がございますので、これからしっかり勉強させていただきますし、今後の動きをしっかり見ながら、どういったそのニーズがあるのかですね、岩沼としてのかかわり方を勉強していきたいと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）せっかくこのような地域、地の利を持っている。または、天気もいいところでもあるし、そういう意味において東北の中では一番すばらしい地域だと。そのすばらしい地域をいろいろな形で底上げし、いい岩沼にするというような施策は、この辺にあるのかなと思っております。

それでは、6番目にいきます。

現在策定中の第4期宮城観光戦略プランにおいて、仙台空港の民営化等を契機とした東北のゲートウェイ機能を活用しながら、東北の広域観光の充実を図るとしてしております。東北の復興を加速するためにも、I Rを含む観光振興に関する可能性調査の推進について、県に要請してはどうか伺います。これは昨年の議会において、市民の請願が議会において採択されているというようなことも踏まえての答弁をお願いします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）観光戦略については国の成長戦略の1つでございまして、国家プロジェクトという認識をしております。したがって、この案件については、県全体として取り組む必要があるんだらうと、そういう考え方にもありますので、県の第4期の計画であります観光戦略にですね、可能性の調査を御提案していきたいと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）宮城県として宮城県議会の議決が必要であると。この法律の中には、そのようになりましたので、そういう中でやっぱり県の対応というのは重要だと思いますので、今後とも県のほうにそのような要請を強く働きかけていただきたいと思っております。これについては、県議会なり県議会の議員も岩沼からも選出されておりますので、協力しながらやるというような方向でよろしいんですか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）I Rの実際の実施法案、まだ可決されておりませんが、方向性としては今おっしゃられたような県議会の議決が必要であるというような提案内容になっているようでございますので、県会議員、そして県としっかりこれに向き合っていきたいと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）はい。東北の発展にもつながるし、観光のとめ置きの1つとしても、施策の中の1つだと私は考えておりますので、そういう意味において、ぜひ対応していただきたいと思っております。

次に、市長の政治姿勢についてを伺います。

今議会に提案されました平成30年度一般会計予算197億4,000万円、また数多く具体的に出された施政方針を見ますと、大変力強さを感じます。今後の市政運営に向けた市長の決意をお伺いいたします。これは市長答弁をお願いします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）私は副市長に就任以来、市議会の皆さん初め、多くの方々に御協力をいただき、全力で復興に取り組んでまいりました。もう7年が経過しようとしてございます。しかしながら、復興はまだ完成には至っておりません。国、県、他市町の計画は10年であります。今後、その残された3年の期間をですね、被災者等にしっかり寄り添い、見きわめながら、本市の復興を仕上げていく必要があるんだらうと思っております。

また、一方で大きな課題である少子高齢化、そして人口減少が進んでいる中で、この対応にもしっかりと向いていかなければならないと。これが復興から地方創生へつなげていくという内容でございますが、これからの数年、復興・復旧で膨らんだ予算規模を早急に安定させる必要があると、こう考えまして、いろいろ岩沼の将来、持続的発展に結びつけていかなければならない大事な時期だと思っております。

これらを踏まえ、今後の市政運営についてはもう少し判断を先にしたいと思っております。これから市民の皆さん、後援会の皆さんとしっかり相談し、さらに政策重視で前向きに検討してまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）前向きに検討するというようなことであります。先ほど質問いたしました震災復興、復旧・復興のリーディングプロジェクトにおいても、まだまだ100%に至っておりません。そして、国・県と

の整合性をとりながら、例えば赤井江の排水事業でもまだまだでありますし、そういう意味においても、やはり今まで副市長、市長としてパイプ役として、国との、県とのパイプ役もやった市長でありますので、今後ですね、それらの案件を完璧にこなしてから、やめるときはやめるということになりますので、結局はまだまだ残された課題が非常に多いと。そういう中において、6月に行われる市長選挙においては、どう決断しているのかどうか伺います。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）議員おっしゃられるとおり、まだまだ復興も進めなければならないし、まだ市の運営ですね、経営自体がまだ安定化していないということがございますので、それらをしっかり、やっぱりやらなきゃならないんだらうという、自分で、気持ちで思っていますけれども、まだ自分としては決断をしておりません。もう少し時間をいただき、そしてまた、前向きに検討させていただきますので、もう少し時間をいただきたいと思っております。

○議長（森繁男）沼田健一議員。

○16番（沼田健一）前向きに検討するというようなことは大丈夫だと私は理解するんでありますけども、岩沼市民のため、市政の発展のため、そして復旧・復興が完璧に終わるまで、しっかり頑張って対応していただきたいという要望で私の質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（森繁男）岩沼政策フォーラム沼田健一議員の会派代表質問を終了いたします。

休憩をいたします。

再開は2時5分といたします。

午後1時55分休憩



午後2時05分再開

○議長（森繁男）休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、いわぬまアシスト、須藤功議員の会派代表質問を行います。発言席において発言してください。9番須藤功議員。

〔9番須藤功議員発言席〕

○9番（須藤功）いわぬまアシスト、須藤でございます。暖かくなってきました、花粉症がひどく、ちょっと聞き苦しいことがあるかもしれませんが、きょうは水を飲んで元気はつらつ頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

さて、最初の質問であります。入札についてをお聞きします。

前回の12月議会で指摘した入札の件で、市長は、岩沼市の落札率が近隣の市や町と比べ高いということは認識されたと思っております。そこで、入札検討委員会を開催されたのですが、どこまで検討されたかお聞きをしたい。我々が開催した議会報告会で、市民からは市長の政治姿勢にも触れる問題ではないかと問われている事案です。

そこで、1番目、施政方針で入札制度の検討が示された。(1)中断していた総合評価方式の再開に向けて検討するとありました。どのように検討するのかお伺いをします。

○議長（森繁男）執行部の答弁を求めます。鈴木隆夫副市長。

○副市長（鈴木隆夫）お答えいたします。

入札制度検討委員会を開いておりまして、再開に向けては、休止中に新たに発出された国の通知などを踏まえまして、新たな制度として30年度中には実施したいと考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）今、30年度からということなのですが、30年度のいつぐらいから実施をされるのでしょうか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）検討委員会において既に検討中ではございますけれども、この案を固めた上で必要な事

務手続をとって、その後ということになりますので、年度の半ば前にはですね、何とか固めたいというふう
に思っております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）今、年度半ば前ということなんですけど、もう年度半ばでですね、半分でもうほとんどの仕
事が発注されてしまいますんでね、できるだけ早く、そういうものを私は望んでいるんですけども、これ
でこの総合評価方式を再開したことによって、高い落札率というのは解消できると考えるのでしょうか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）総合評価方式を再開する意味といいますか、理由なんですけど、それはその高い落札率を
低くするためということではございません。総合評価方式のそのメリットといたしましては、価格だけでは
はかれない技術面の評価、そういったところを含めて評価をすることで、市にとって有利な契約をしたいと
いうことがメリットでございます。そこを実現するために総合評価を入れたいということでございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）では、この総合評価方式の、例えば請負金額の金額の高さといいますか、幾らから総合評価
方式にするのでしょうか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）そこにつきましてもですね、実際総合評価の制度として、今後その固めていくときにで
すね、実施要領をつくります。それと、実施要領に基づく落札者を決定するための基準、そういったものも
つくっていきます。その実施要領の中で対象工事の金額とか、あるいは性質とか、そういったところを決め
ていくようになるのですけれども、それを、その制度を、ルールを決めるために学識経験者の意見聴取など
も予定しております。そういったものを踏んだ上でですね、ルールを確定するという予定にしております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）今までの話を聞いていて、総合評価方式というのは、岩沼だけがやろうとしているわけでは
ないんです。宮城県もそう、ほかの自治体もそうなんです。やっているんです。岩沼も今までやったんで
すよ。そんなに難しいことじゃない。また復活するんですから、同じようにやればいいだけの話です。すぐ
にできる、やればできる。何でこんなに学識経験者呼んで、時間をかけて長いことやるんですか。これ、こ
んなことやっていたらね、まだまだ高い落札率が、そのまま解消しないんじゃないかなと思うんですけど、
これを最終的に目標にしているわけではないとおっしゃるんですけども、早くやる、すぐできる話だと思
います。どうですか、その辺は。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）はい。繰り返しで恐縮ですが、最初に答弁いたしました新たに発出された国の通知など
といったものの中ですね、総務省、それから国土交通省連名での通知が1つございます。それは、総合評
価における適切なダンピング対策という通知がございます。その中では、総合評価方式での入札をする場合、
低価格調査の制度を必ず導入してほしいということです。最低制限価格で足切りをするといったようなこと
は、総合評価制度の、総合評価の制度の中ではやってはいけないというような通知もいただいております。
そういった点について、従来やっておりました内容とは、見直しが必要になっておりますので、そういった
こともございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）今の話は、ダンピング対策どうのこうのといってもね、なかなか市民には受けない話ですよ。
ちょっともう1回聞きます。では、今まで総合評価方式を取り入れる場合は、今までの場合は落札金額、設
計金額は幾らから上が総合評価対策、総合評価方式だったのでしょか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）金額につきましては、7,000万円以上のものを実施しておりました。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）ということは、これより低い場合は総合評価ではなくて、一般競争とか、そういう従来どお

りの入札にするのでしょうか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）ただいま申し上げたのは、以前に実施していたものですがけれども、そういうことです。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）では、2番目の、(2)の質問に入ります。

郵送ですとかね、それから電子入札というのが今あるんですよ。多分わかると思うんですけども、郵便で封書として送る業者は入札会場に来ない。あと、インターネットを使ったメールで数値を入れて送る。これは、よくほかの自治体ではやっています。例えば宮城県、それから仙台市、そういう大きなところですがけれども、やっています。そういうものに改める考えはないのでしょうか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）はい。現時点で郵送における入札、あるいは電子入札については、実施することは考えておりません。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）できない理由というのは何ですか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）1つは、その実施するに当たっての期間が延びてしまうということと、あるいは電子入札を行うためには、役所側、それから事業者の方、双方にその必要な環境整備というものが必要になりますので、そういったところでそのコスト等、あるいは安全対策等、そういったところのハードルが高いのではないかというふうに思っております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）電子入札って、各業者がもう岩沼だけじゃなくてね、宮城県とかやっているんですよ。岩沼の業者ができないなんて話じゃないんです。メールで書類添付して送るだけなんですから。これでも総合評価もできれば、一般競争できるんですから、そんな難しい話じゃないでしょう、どこも。ただやるほうが、まだ整っていないというだけの話だけど、例えばこれね、1年かけてやりますと。来年からやれるんです。そう言うこともできるんじゃないですか。そういうことは検討しないんですか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）現実にこれまでの入札を行っている中でですね、参加者が極端に少なくて困るとかですね、そういったところでどうしてもその間口を広げていかなければならないという、切迫した状況というところは、これまで感じておりません。実際に、今の規則上は来ていただいて、入札書を投函していただくということにしておりますけれども、そこで特段の支障があったというふうには考えておりません。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）落札率が岩沼は、平均落札率ですよ、95%を上回っている。他の自治体はかなり下回っている。ここの差が違うということですよ。これを少しでも変えていこうとしなければ、岩沼の税金、じゃんじやなくなっちゃいますよ。少しでも請差が大きければ、例えばね、話を前にしましたけれども、亶理町は85%でしたよ。岩沼市97%、請負差額で4億円ぐらい違うんですよ。こんなに違うんだったら、来年度いろんなものにお金使えるじゃないですか。85にしろとは言いません。これは、業者はいっぱい高く欲しいのわかります。だけど、岩沼市はそういうことを改革しようとしなければ、この問題はずっとずっと先送りになってしまう。市長、どうですか。その辺は。

○議長（森繁男）菊地啓夫市長。

○市長（菊地啓夫）前もお話し申し上げましたが、その目的が下げるためだということではなくてですね、やっぱり適正公正にやるための方法として、これからやっぱり考えていく必要があるだろうと、その1点に尽きると思います。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）この話はまた後にも出てきますので、(3)の話にしたいと思います。

入札参加条件を市外業者に広げるつもりはあるのでしょうか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）市外の業者の方も条件を満たす工事には、現在も参加していただいております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）ちょっと例を言いますね。亶理町、ちょっと話をいろいろ聞いてきたら、亶理町の場合は、いろんな業者を市外からどうですかということで入札応募しているんですよ。亶理町に本社、営業所、支店がなくてもできる。岩沼の今までの大体の工事に書いてあったのが、岩沼市に本社を有するとか、支店、営業所を有するという、そういう条件つけられたのが結構多々あったんです。そういうものをなくすようなことは、今後しないということですか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）はい。工事のその金額なり、あるいは工事の内容なり、そういったことでその市内で十分に競争ができるものについては市内で、市内に本社のある事業者をお願いしている。それが、その能力、経験等からいって、大手といいますか、市外の事業者でないといけないようなもの、そういったものについては市外からも手を挙げていただいている。そういったことで、特にその門戸を閉ざしているということではございません。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）ちょっと少し入札の事前通告から外れるのですけれども、1つお聞きしたいのですが、入札のことにしてなでお許し願いたいんですけれども、一般競争入札するとき、一般競争というのは、広く皆さんからどうぞって呼びかけるわけですよ。それで応募する会社は何社あるか。それは、その入札をするまでに応募した会社がわかるんでしょうか。わからないんでしょうか。その辺は事前に応募した人が、入札をする日までにわかるのか、わからないのか、そういう、どういうシステムになっているんでしょうか。

○議長（森繁男）大友彰総務部長。

○総務部長（大友彰）一般競争入札で申し込みをされた企業様は、市役所のほうは当然把握しておりますが、事業者様のほうは把握できないという状況ですね。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）そうですね。当たり前なんですよ。しかし、ことしの上半期に、上半期と下半期かな、ちょっといやらしい入札、これね、何か疑っちゃうような入札の事例があるんです。岩沼市内の業者さんが今まで99とか98%で落札していたのに、1億円の工事とか、約3億円の工事、これ設計金額ベースです。これがね、90%ぎりぎり、しかも最低制限価格を設けたところのちょこっと上で、岩沼市内の業者が、同じ業者が落札をしている。中に、どういうことになっているかということ、仙台の業者が入っていた。先ほど言ったのは、入札するまで誰が来るかわからない。誰が来るかわからないけれども、入札するとき今まで99、98、99でとっていた会社が、いきなり90、最低制限価格よりちょっと上。恐ろしいちょっと上。こんなの同じ工事が2件もある。100万円、200万円じゃないんですよ。こういうことが2件もあると、じゃあどこからか情報漏れてんじゃないのというふうに疑わざるを得なくなってくる。こういう入札が実際ありました。これ、どう思いますか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）入札の金額の内容について、市役所側がコメントすべきではないと思うんですが、どう思うかということにつきましては、12月の一般質問でも御答弁申し上げたとおり、予定価格と最低制限価格の中で競争いただいて適正に入札いただいた結果、その金額で落札いただいているという認識で市役所はおります。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）では、(4)の質問に入ります。最低制限価格を撤廃して調査価格を導入してはどうかという質問です。その質問はどういうことかということ、例えばこれ名取市とか、それから亶理町は震災復興関連の仕事は75%の率で請け負っている。75%ですよ。岩沼市にしたら、当然失格ですよ。これがもう受注されてい

る。こういう事例があるんですよ、同じまちで。ですから、最低制限価格なんかやめちゃって、安い金額だったらそこは調査しましょうと。調査した上で、ここは失格とか、例えばどここの率が悪いとか、低いとか、高いとか、そこは幾らまでだったら許容できるとか、そういうことを皆さんの税金から発注されている岩沼市はやるべきではないかと思うんですが、そのことに関してどうでしょうか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）先ほども申し上げましたが、総合評価方式の導入に当たっては、低入札価格調査制度をあわせて行うということになっておりますので、その方向で検討しているところでございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）その低入札そのものが、私はいいとか悪いとかと言っているのではないんですよ。疑われるようなことがあるかもしれないから、そういうふうにしたほうがいいですよと言っているんです。わかります。最低制限価格を持っていけば、どこからか情報が流れたとすると、これ市役所の責任じゃないかというふうに思わざるを得なくなっちゃうということです。疑わざるを得なくなっちゃう。同じ業者がやっているんじゃないかって、これあるわけですから、やっぱりこれはね、調査価格にして、75%がいいか悪いかは別です。80%がいいか悪いか別です。それは、判断されるのは岩沼市さんで構いませんが、どうかこれは再度聞きますけど、やられたほうがいいと思いますけど、どうでしょうか。

○議長（森繁男）鈴木副市長。

○副市長（鈴木隆夫）総合評価で行う場合は低入札価格調査を行う。議員御提案のように、最低制限価格を全て撤廃するかというのですね、その工事の種類等、内容等によっては、そこまで行う必要がないというふうに見えるものもありますので、その最低制限価格と低入札価格調査、これを併用するような形で当面は行っていきたいと考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）では、次のくくりの2番目の質問に入ります。

他市町より高い落札率が正当だと今でも思っていますか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）岩沼市が行っている入札は、正当に行われております。岩沼市も、先ほど来副市長のほうから申し上げておられますとおり、入札制度の見直しを行って、今回も行いますし、12月の定例会のときも御答弁申し上げたとおり、今までも入札制度については見直しを進めてきている状況です。また、岩沼の場合はですね、その全ての工事を一般競争入札にしていないのを理由として、官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律、いわゆる中確法という法律でありますとか、公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針などですね、地元業者をしっかりと指名しなさいという指針に基づいて、やれるものは地元業者で、やれないものは市外の業者でということで、指名委員会で判断しながら進めてきている状況でございます。

そのような中で、予定価格と先ほど申し上げました最低制限価格、こちらのほうも最低制限価格につきましては、ホームページのほうで計算の仕方につきましては公表しておりますので、しっかり計算していただくと、岩沼市の最低制限価格は工事の場合どの程度になるかというのは、計算できるような仕組みになっておりますが、このような中で御競争いただいて入札いただいているわけですので、岩沼市の入札につきましては、適正に行われているという認識でございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）今の答弁の中に、これ同じことをちょっともう1回読みますけれども、12月の議会の中で大友総務部長がこう言っています。「設計価格については、性能のすぐれたソフトがあつて積算される時代になっているということで、岩沼市においても設計価格を積算していただいているところです」と、こういう答弁しています。きょうと同じような話です。要は、ソフト持っていけば、岩沼市だけが特殊な設計金額を持っているわけではない。ほかの自治体とほぼ同じ金額なんですよ。ほかの自治体と同じ積算をしていながら、ほかの自治体は95や、もう90とか、92とか、宮城県もそうですよ。95をはるかに下回っている。なのに、

岩沼が高いから、そこについて、そこについて正当だと思っ
ていますかということなんです。どうですか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）繰り返しになりますが、正当だという認識で市役所はおります。先ほどの私申し上げたのは、最低制限価格について公表しております。また、12月の議会で申し上げた設計額というのは、国土交通省が示した、その単価などの標準が公になっておりますので、計算すると、その事業者の方と市のほうが積算した金額がほとんど変わらないという御説明を申し上げたつもりでございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）これでね、設計価格が漏れたとか、どうのこうのなんて言えませんよ。そんなこと言ったらね、大変な話になりますからね。確かに適正だと言うしかありません。ただね、市長、言っておきますよ。何でこんなに高いのかということです。それに市長は満足しているんですか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）コメントとしてはですね、満足ではないんですが、適正に行われているんだろうと思います。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）では、イタチごっこというか、まあ平行線なので、この次の質問に入ります。

陸上競技場について。

昨年9月の定例会で、陸上競技場の改修を私はこの議会で提案しました。そこで、スポーツ振興くじ活用で1億円の補助をもらってはどうかと提案しました。市長は答弁でこのように話しています。「公共施設等管理計画をつくってございます。その中には陸上競技場も公共施設と位置づけておりますが、その前にやらなければならないのが学校の施設整備、そして橋、それから朝日地区のいろいろ、道路の整備、そういうものを比較しながら財源の捻出をしていると。陸上競技場もその1つであって、できるだけ早くかしか言いようがないけど、状況は私も十分把握している。できるだけ早くということで整備を進めていきたいと思
います。まずは、財源の手当てをしていきたいと思
います」、このようにお話をされておりました。

しかし、翌10月にですね、担当者が改修に向けて動き出したよというような情報が私にありました。岩沼市は、財源の確保はすぐできるんだなと感心した次第です。陸上競技場に何度も足を運んでおりましたから、市長は、だから、ああ、この中身がわかってくれたんだと思
いました。今回の議案に3億円の改修費が見込まれて
います。そこで、改修範囲について伺います。どこまで改修するのでしょうか。

○議長（森繁男）教育長の答弁を求めます。百井崇教育長。

○教育長（百井崇）午前中も佐藤剛太議員から御質問いただきました。改修範囲につきましては、課長のほうから詳しくお話をいたします。

○議長（森繁男）沼田輝明生涯学習課長兼スポーツ振興課長。

○生涯学習課長兼スポーツ振興課長（沼田輝明）お答えいたします。

今回計画している改修範囲は、トラック及び芝生フィールドになります。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）このトラックとフィールドなんですけど、フィールドは例えばその、どこまでやるか。つまり公認がとれるように改修をするのか、将来的にね。いや、そうじゃないと。トラックから、トラックというか、やり投げとかから何センチか芝生が高いと公認にならないんですよ。こうじゃなくて、今高くなっているから、それを低くして改修するのか、そうじゃなくて今の高さにするのか、その辺はどうなんでしょうか。

○議長（森繁男）沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長。

○生涯学習課長兼スポーツ振興課長（沼田輝明）お答えいたします。

現在、議員がおっしゃっているように、芝生はちょっと高目になっております。それを改修して、トラックの平面と合わせるような工事もあわせて行いたいと思
っております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

- 9番（須藤功）では、ずばり聞きます。ここの陸上競技場は公認の陸上競技場に改修するのでしょうか。
- 議長（森繁男）百井教育長。
- 教育長（百井崇）公認は考えておりません。
- 議長（森繁男）須藤功議員。
- 9番（須藤功）公認にしない理由は何ですか。
- 議長（森繁男）百井教育長。
- 教育長（百井崇）まず、今まで使ってきて差しさわりがございました。それから、2つ目はですね、うちのほうの教育方針の中に、健康増進の施設として位置づけておりますので、公認の必要はないと思います。3つ目、これはあの付録みたいになりますけども、公認とるためにはかなりの財源が必要でありますので、これはとりませんし、やはりこの陸上競技場の目的は一般市民の健康増進だと。その目的にかなった施設としてとらないということです。
- 議長（森繁男）須藤議員に申し上げます。現在、2番目の質問事項に入っているのでしょうか。公認という話が出てきましたけれども。
- 9番（須藤功）いや、1番目です。これ、競技施設の公認というのは、陸上競技場だけじゃなくて、全般のことを指しているんで、陸上競技場だけじゃなくてね、例えばいろんな公認について。だから、一番最初の陸上競技場などについてということで私は述べているので……。
- 議長（森繁男）わかりました。質問を続けてください。
- 9番（須藤功）改修範囲のことなんですけれども、じゃあこの公認しないというのは、陸上競技場を公認しないということは、これ、陸上競技協会というのがあります。例えば小中学校の審判をする、それからいろんな大会を開催する。そういうところがいろいろ使っているんですけれども、ここには公認をしないことを伝えたいのでしょうか。
- 議長（森繁男）百井教育長。
- 教育長（百井崇）公式には伝えておりません。
- 議長（森繁男）須藤功議員。
- 9番（須藤功）市民の健康だとか、そういうことを言いながらね、陸上競技は直すけど、あとは陸上競技協会ですら勝手に運用してちょうだいよと。そういうところでやっぱり話をしながら、そして進めていくのが行政じゃないのでしょうか。何でしなかったんですか。
- 議長（森繁男）百井教育長。
- 教育長（百井崇）市の施設でありましてですね、いろんな方々からは、非公式ですけども、いろいろ意見を聞きながらですね、やってまいりましたし、公認にこだわる必要はありません。
- 議長（森繁男）須藤功議員。
- 9番（須藤功）いや、おもしろいのはね、公認にこだわる必要がないって言うんじゃないで、やはりそこをいろいろ活用している団体があるんですよ。そういう人たちと話ししないで勝手に進めて、公認しねえぞって、こんなやり方、岩沼市としていいんですか。恥ずかしくないですか、こういう話で。
- 議長（森繁男）百井教育長。
- 教育長（百井崇）恥ずかしい、恥ずかしくないとかじゃなくてですね、これ財源の問題とか、それから岩沼市民の健康の増進の施設だという、その目的、その目的があるわけですから、競技の方々のための公認はとる必要ないと、そういうこと。それは、競技は公認とらなくても競技できますし、記録的なものは別ですけどもね。そういう意味で、この施設に、目的にかなった使い方をしていくと。そのためにとりません。
- 議長（森繁男）須藤功議員。
- 9番（須藤功）何か3億円も使って公認とらないって、すごくもったいないと思いますよ。後でお話ししますけども、3億円も使って公認とらないって、本当にもったいない。これ、ちょっとまた後でお話しします。では、2番目の競技施設の公認をどう考えているかということで質問します。例えば大会を開催する。例

例えばいろんな競技ね、大会開催するときに、必ず公認球、公式球とか、それから公式の審判、公認の審判、それからそのための広さ、そういう施設がないと大会開けないんですよ。ここでその陸上競技施設のみならず、競技施設の公認をどのように考えておりますか。

○議長（森繁男）百井教育長。

○教育長（百井崇）質問が大き過ぎてちょっと理解しかねるところあって、ちょっと答えがですね、かみ合わないかもしれませんけれども、岩沼市という4万人のまちでですね、こういう施設を持つ。しかも、岩沼市民が使う。やっぱり一部の競技者のためにあれば、それはいいかもしれませんけれども、4万のまちで3億というお金を出せる。そこにですね、もっと出せと、そういうことになると思います。やはりこの施設の目的である健康増進のための施設だと。それで、今までも公認でなくても、いろんな大会をやりながらやってきました。そこに何か不都合があればですね、考えなきゃいけないと思うんですが、ただ公認をとることによる、そのほか付随したいろんな費用面とかですね、人的な面もありまして、そこまではなかなか手が回らない。そして、目的が、繰り返しますけれども、健康増進だということで、そういう公認はとらないと、そういう意味です。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）ちょっと教育長からそういう話出るとね、がっかりするんですよ。教育長って、子どもたちのこととか考えている、それから教育のことも考えている、芸術のこととかいろんなことを考えている。だけど、お金の話は市長なんですよ。市長が金を出さか出さないかですから、そこまで教育長考える必要はないですよ。だからね、健康増進なら健康増進でね、それはいいですよ。だけど、そのある意味、公式球とか、公式の審判員がいなければ、大会はできないということの認識はあるのかどうかをお伺いしたい。

○議長（森繁男）百井教育長。

○教育長（百井崇）私もそれぐらいはわかります。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）これ、聞いたのは、3番目の質問に入るためであります。

昨年9月議会でも、陸上競技場に経済効果は期待していない旨の市長答弁がありました。この答弁は今でも変わりませんか。

○議長（森繁男）市長の答弁を求めます。菊地啓夫市長。

○市長（菊地啓夫）いえ、ここの設置目的に照らし合わせればですね、経済効果を生み出す施設ではないということをおっしゃるつもりでおります。ですから、答弁の内容にはね、お金を使っていたかのはありがたいと思うんだと。しかし、陸上競技場で経済効果を上げる発想は、そう強く持っていないというお答えをしたんで、あそこから財源を生み出す、そういう発想にはないということをおっしゃったところで。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）そうですね、そのとおりです。今の陸上競技場の県内のことをお話をします。宮城県内で公認の陸上競技場のうち、宮城スタジアムは2019年7月から2020年10月ぐらいまでに東京オリンピックのために使用ができなくなると聞いています。陸上競技場の公認で大会が開催できる場所は、仙台市、栗原市、そして角田市の3つしかありません。3つだけです。競技関係者からすれば、岩沼の競技場は、仙台市に次いでトイレ、それから多目的グラウンド、それからほかの施設、そういうものも充実している。交通の利便性もいい。駅から徒歩でこれる。大会関係者には、これ垂涎の場所といいますか、どんどん岩沼で大会やってくださいよと思われるところなんです、市長、そういうことをやることによって私はね、経済効果あると思います。どう思いますか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）そうですね、基本的には市民の施設だという考え方がありますんで、大いに市民に利用していただきたい。そしてまたあきがあれば、ほかの地区の方でもどうぞお使いくださいというスタンスなんですから、大会のためにまた投資をするというわけにもいかないもんですからね、現状のままでいろいろお使いをいただく。仮にですね、ほかの地区が使えないということであれば大いに使っていただいて構いま

せんので、ただし、そのまた公認コースとか、あるいはそれなりに制限が加えられた大会を開くために投資するというのは、今は考えておりませんので、御了承いただきたいと思います。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）1つの例を出します。例えば県の中体連、種目でいうと1年生の100、200、300、400、女子は400ないんだけどね、800、1年生の1,500、2、3年生の1,500、それから3,000メートル、これ男子だけです、これ。それから、幅跳び、高跳び、棒高跳びもあるんですよ、男子は。あと、砲丸投げ、110メートルハードル、女子は100メートルハードルですけど、そのほかにリレー。これがね、岩沼から男女2名ずつ出られる。2位まで出られるんですよ、県大会に。そして、これが地区、宮城県、全部地区で鑑みると、約1,700名ぐらいの選手登録になっちゃうんです。仙台市は12名までかな、出られるのが。そういうことを考えれば、すごい人数が県の中体連の大会で、そのほかに関係者、保護者、いろんな人、来ます。来てくれます。

先ほど仙台空港の関係でインバウンドの話がありました。岩沼市にとどまって、サテライトショップで弁当買います、アイスクリーム買います、お土産買いますって、岩沼市に泊まらなくちゃいけないところもあるんですよ。ホテル、旅館、すごい人が入るかもしれない。泊まらなきゃだめなんですから、遠くから来る人は。これね、もうちょっと考えてください。そういう人が、そういう大会なんです、陸上って。県の中体連来るかどうか知りませんが、公認でなければ大会はできない。そういうことだけは申しておきますけれども、その辺どうですか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）そうですね、議員の思いとしては理解できるところでございます。

しかし、たとえ公認とるとすれば、例えばですね、設備の見直し、あるいは買い換え、あるいはまたさらに設備をつくらなければならぬ分野も出てくるかもしれません。ですから、3種にしても公認とるとすれば、少し勉強しないとね、そこまで踏み込めないんだろうなと私自身は思っております。

今までの情報によると、億近いお金がかかると、さらにですね。ですから、これをすぐやると、3種に、3種公認になるようにすぐ手続をとるというわけにもいかないんで、できるだけ現状のままでお使いをいただければ、安全にですね。そういう範囲の中で今3億円を、予算措置をお願いしているわけでございます、少し勉強させてもらいますから、3種公認がね、私はそのまま人の利用に結びつか、岩沼市民のプラスにもなるかどうかという範囲もあるんでね、とること、3種にすればまた使いづらくなる、市民がですね。いろいろなる方面から考えなきゃならないと思うんで、少し動きを見ながら、今後研究してみたいと思いますんで。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）ぜひ勉強してください。本当にお願ひしますよ。

というのはね、私、昔ふるさとの森かな、里の杜にある、あそこにコンビニつくったらどうですかと前の市長に話しました。「無理だ」「だめだ」「全部だめだ」、そうしたら市長つくったじゃないですか、あそこにサテライトショップ。あそこつくってね、やっぱりね、そこで弁当売りましょう。岩沼のお土産売りましょう。岩沼に銘菓ないなんて言う人もいますけど、ありますよ。そういうところでお土産、全国大会から来る人、あそこのサテライトショップに行くと、ああ、ここに店あるから買っていこう、宮城県内から来て、これおいしいから買っていこう、何年も来てくれればそういうのがあります。億の金使ったって、ホテルに泊まってくれる、旅館に泊まってくれる、そういう経済効果考えてください。これ、勉強してほしいと思っております。ぜひよろしくお願ひして、次の質問に入りたいと思います。

亀塚第一住宅跡地についてです。

亀塚第一住宅跡地の活用方法は、市民でなく我々議員も不明なままで、何ができるのかわからない状況にあります。市は、昨年岩沼市市営亀塚第一住宅跡地貸付対象事業者募集をプロポーザル方式で行いました。結果は、公益社団法人青年海外協力協会、以下、J O C Aというふうに申し上げます。の1者だけが応募しました。一昨年12月議会では、J O C Aを事業主体とする拠点形成について検討を進めてまいりますという

ふうに言われております。J O C Aを事業主体とすることを明言していました。同じ時期に、岩沼市民図書館2階にて、J O C Aが亀塚第一住宅跡地活用方法を展示されていました。

その後、昨年2月の定例会では、市営亀塚第一住宅用地の活用については、2月18日に開催した地域懇談会、市民図書館でのパネル展示及び広報への掲載により、市民の皆様からの御意見を広く募集しており、これらの御意見を踏まえながら、引き続き活用方法について検討を進めてまいりますと市長は言っております。これは、市民からの声を受けて、こうじゃだめだから変えていこうと思ったんです。これ、いいことだと思いますよ。その後の6月定例会で、さきに実施した地方創生に向けたまちづくりに関するヒアリング調査及び市民の皆様から寄せられた意見等を踏まえ、市の土地利用の計画案がまとまり次第、実現のための提案をいただける事業者を募集していきたいと考えておりますとありました。これは、今度は市民の意見からでJ O C A、このJ O C Aの文言が消えちゃったんですね、この6月議会で。そうしたら、今度は9月の議会でプロポーザルが持ち出されまして、今に至っています。さきの代表質問でも、跡地活用に今年度と来年度、これ1億4,000万円使われる予定です。

そこで質問です。1番目、プロポーザルの公募に1者だけが応募しました。1者を選んだ理由、決め手は何でしょうか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）亀塚住宅跡地の活用につきましては、議員全員協議会で御説明を申しあげました活用方針に基づきまして公募させていただいたところでございます。その事業者の決定につきましては、市営亀塚第一住宅跡地貸付対象事業者選定委員会において審査をいただき、提案内容が評価要領で定める基準に達していたことから決定したものでございます。1者を選んだ決め手ということではございません。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）これね、プロポーザルで、市民の意見がどういうものか私わかりません。どういうものをつくってほしいとか、どういうものがこうだとか、当然賛成とか批判とかあると思います。だけどね、これプロポーザルをやって、ただ単に体裁を整えただけじゃないんでしょうか。その辺、どうなんでしょうか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）市民の意見をお伺いする機会もございましたし、ホームページ上で御意見を求めたときに、数は少ないんですが、いただいた御意見もございました。その御意見も含めて検討した結果が、活用の方針で議員の皆様へ御報告させていただいた内容でございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）その市民の意見というのは、ここで、この場に出せるのかどうか、差し支えないかわりに、ここで出してもらえれば助かるんですけど。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）ホームページでいただいた御意見、電話でいただいた御意見としては、高層の建物を建ててですね、活用してはどうかという御意見をいただいております。また、地域の方々からいただいた意見としては、さきの方針の説明会のときも、こちらの方針のほうで記載させていただいて御報告させていただいたんですが、地域の方からの御意見としては、子どもの遊び場や高齢者が気軽に集える場所がないですとかですね、町内会の方々からの御意見としては、役員が高齢化しているが若い世代への引き継ぎがなかなかできないとかですね、地域の清掃や防災訓練など、行事への参加の方がふえないとか、各種方面の御意見はいただいております、それは御報告していたという認識でございました。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）その意見がプロポーザルにどこまで反映されたんですかね。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）この御意見なども踏まえさせていただいて、今回のプロポーザルでは、市役所としては必須の事業と期待させていただきたい事業ということで区分けをさせていただき、必須の事業としては保育所でありますとか、子育て支援センター事業をお願いしたいと。また、期待する事業として障害者の事業で

ありますとか、高齢者の事業でありますとか、健康増進の事業を行っていただきたいというふうにまとめたものでございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）これもちょっと後からまた出てきますんで、2番目の質問に入りたいと思います。

応募されたこの企画の内容、これどんなものだったのかちょっと伺いたいですけれども、どんな施設がどのように設置されるのでしょうか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）法人の方からは、法人からは、必須であります定員90名の認可保育所や子育て支援センターの設置に加えて、障害福祉サービス事業や多世代が交流できる拠点などの御提案をいただいております。これらの方針に基づいた事業を行うための施設がですね、先ほど申し上げましたが、民設民営で整備されるものと考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）障害福祉サービスってあるんですけど、これ具体的にどういうサービスなんでしょうか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）障害者の方の就労支援施設として活用いただくという提案でございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）また、きょうの代表質問でも出ていたんですけど、何か子育て支援センターも入るような話があったんですが、これも入っていたのでしょうか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）繰り返しになりますが、保育所の事業と子育て支援センターの事業は必須の事業でございますので、入っております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）では、(2)の質問に入ります。昨年1月、J O C Aのパネル展示と、どこが違って、今回応募されたものはどこが同じなのか、その辺を伺います。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）昨年の提案の内容といたしましては大まかな取り組み内容、またイメージ図などをパネル展示をされておりました。今回の提案につきましては、事業の実現性や継続性を加味した具体的な内容となっております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）では、まるっきし同じということなんでしょうか。それとも、いや、全然どこか違うというのを聞いているんですけど、事業の実現性と言われてもびんとこないんですけど、何のための事業の実現性なのか、もうちょっと詳しく、例えばどこが違うのかね。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）J O C Aの方からの御提案のもともとなる部分につきましては、岩沼市と青年海外協力協会と結ばせていただきました協定に基づくところでございます。また、生涯活躍のまち構想における生きがい等を創設する事業の検討につきまして、岩沼市とJ O C Aで委託契約を結びまして、岩小学区の状況について調査をお願いしているところでございます。

そのような中から、青年海外協力協会のほうでですね、先進事例と申しますか、社会福祉法人の佛子園さんが行っている事業をモデルとして、そのモデルに対して岩沼市の場合どうだろうということで、保育園でありましたり、レストランなどの経営でありましたり、高齢者の支援の事業でありましたり、またコミュニティの関係のパスをつくるかという提案を、文字というか絵、このような事業を行ってはどうでしょうかという提案をいただいたのが2月の提案でございます。今回の提案では、すっかりその平面図でこのような配置をつけて、面積はこのように行って、このような人員配置をしてというように細かい部分まで、実現性があるかどうかという提案をいただいているという違いがございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）じゃあ、話を聞いていると何も変わらないということと一緒にないんですか。例えば昨年2月に、昨年2月かな、12月かな、図書館で展示していたものと何も変わらないということで考えてよろしいんでしょうか。今回プロポーザルで受けたのは、そこは何も変わらないよということなんですか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）何も変わらないというと、違うのではないかという認識を私どもは持っております。

繰り返しになりますが、さきのそのパネル展示の際は、その参考となるものを使わせて、利用してですね、このようなものがあつたらいいのではないかという提案でございますので、その中から今回岩沼市がその方針の中で打ち出したものを、取捨選択されてなくなったものも当然あるのではないかと。例えば、最初に海外青年との交流のような項目も最初はあつたんですが、そのような事業については、そういう表記では、もうなくなっているという違いがございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）初めからそれを言えばいいですよ。今さら言うんだものさ。3回目だよ、3回目。初めっから、どこが違うかってちゃんと文言で書いてあるじゃないですか。不誠実だ、本当にこんな答弁するの。初めっから、何がない、どこが違うって言えるじゃないですか。何で一々隠すようにどうのこうの、どうのこうのって。全然わからない話だったですよ。例えば温泉がありましたよ。温泉がありますか。今回のプロポーザルで。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）御提案の中に温泉はございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）そういう確認をしたい。温泉は、じゃあつくってそれでやるよとか、具体的、一番最初にね、その前の段階でね、応募された企画内容、どんな施設かって聞いているんですから、こういうのありますよって何で言ってくれないんですか。本当に不誠実だ。

じゃあ、ちなみに言います。ここにね、プロポーザルの募集要綱あるんですよ。募集要綱に、ちょっとこれあれなので、済みません、3番。ちょっと今興奮しちゃった。(3)の質問に入ります。保育所のスペース等について伺います。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）保育所のスペースにつきましては、保育所設置基準に沿った90人の定員の設置の提案をいただいているところです。また、今後事業者において、保育施設の認可権限を持つ宮城県の指導をいただきながら、施設全体の詳細を決定してまいります。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）これ、今定例会の施政方針の中に、保育所のほの字も入っていない。何で抜けたんですか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）亀塚の事業は29年度にプロポーザルをさせていただいておりますので、施政方針は30年度事業ということで、今回亀塚第一住宅跡地の整備などについての報告、方針は出させていただいていると思っています。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）岩沼のね、この亀塚住宅に1億4,000万円も市の税金入っていて、保育所ここに移るんですよと言っているときに、90人もの保育所施設つくりましょと言っているときに、保育所のほの字も入っていないって、そんなばかな話ないでしょう。抜けたら、抜けたで申しわけありませんならわかるけどさ、30年度だから抜けたって。じゃあ、来年度の話って、また別なんですか、今度。ちょっとそこどうですか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）済みません、抜けたという答弁をしたものではなくですね、執行部のほうでは30年度事業、29年度事業の報告ということで振り分けをさせていただいて、重要なものはしっかり議員の皆様

報告をさせていただくという思いで施政方針をつくっております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）何かあのへ理屈のように思う。いいですか。保育所を、保育所つくるんでしょう、亀塚に。第一住宅跡地に保育所つくるんだったら、保育所つくりますって、抜けたら抜けたで済みませんでいいじゃない。ないと思ったもの、保育所。施政方針だよ、市長の。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）亀塚住宅跡地の利用、活用につきましては、議員の皆様にはしっかりと御説明を申し上げ、保育所は必須の施設、子育て支援センターは必須の施設であるということで御説明を申し上げたつもりでありますので、そのような御理解を須藤議員にもいただいているものと考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）こんなことを一々言ってもしょうがないから、次に移りますけどね。本当、情けない話ですよ。

じゃあ、新しい保育所はいつオープンするのですか。(4)。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）法人からの提案の中では、開所につきましては、33年4月を想定している提案でございます。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）保育所つくって、90人、ねえ、新しい保育所つくります。これ、みんな期待しているんですよ。町なかにつくる。それが、施政方針に入っていないわ、いつつくれるもわからないわ、一々聞かなきやいけないわってさ、ちょっと何か無責任な話だと思いませんか。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）いろいろあの総務部長からお話をさせていただきましたが、ずっと逐次亀塚第一については報告をさせていただいておったつもりでございます。30年度においては、その報告、提案内容についての具体的な計画を進める中で、業者を決めていって、やる業者を決めていって、その後に予算措置ですつつくっていくわけですから、その流れの中で報告をしているわけで、最初から保育所をどんとつくるということはまだ必要ないかと思っています。ですから、亀塚第一住宅跡地の活用方法としてずっとこれからも説明してまいりますので、すぐに保育所、あるいは子育て支援センターというところまでは、まだいたしませんので、そういう提案をいただいておりますので、これからいろいろ協議を進める中でまた具体化されましたら、議会に報告をさせていただきますので、その辺は御了承いただきたいと思います。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）はい。3番目の質問に入ります。

昨年の市政報告で、地域社会づくりに資する施設と発言していました。J O C Aの事業運営に資する施設ではなかったんでしょうか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）御提案をいただいております施設につきましてはですね、市で定めた市営亀塚第一住宅跡地活用に係る方針や募集要領に基づいて地域社会づくりに資する施設、地域社会づくりに資する施設という御提案をいただいているものという認識であります。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）昨年9月と12月の定例会で同じ文言2つ出てくるんですよ。「生きがいを持ち、生涯活躍できる地域社会づくりに資する施設」、これ2つも出てくる。誰のための施設かどうかよりも、私はこれはJ O C Aのための、そういうようなものに勘ぐっちゃうんですけど、そのところ、どうですか。

○議長（森繁男）大友総務部長。

○総務部長（大友彰）市民のための施設を民設民営で設置いただこうと考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）では、大きなくりの4番目……。

○議長（森繁男）須藤功議員に申し上げます。一般質問の途中ではありますけれども、残りの一般質問は休憩をして、再開後に継続したいと思いますので、御了承願います。

それでは、休憩をいたします。

再開は午後3時15分といたします。

午後3時08分休憩



午後3時15分再開

○議長（森繁男）休憩前に引き続き、会議を開きます。

須藤功議員の会派代表質問を継続いたします。須藤功議員。

○9番（須藤功）では、4番目の都市計画道路と雨水排水対策についてをお伺いします。

岩沼市が行う都市計画道路に着手することは、本当に素晴らしいことでもありますし、これまでもいろいろやってきた中の道路行政の中で、どんどんとですね、よくなっていくということは素晴らしいことだと思っております。

その一方で、岩沼市には未着工な都市計画道路がまだ存在しています。10年前には都市計画道路の見直しがあり、岩沼中央線は一部区間を廃止しました。市長の道路行政について政策を聞きたいと思います。

1番目、朝日竹の里線の整備の始点と終点はどこまでか伺います。

○議長（森繁男）菅原伸浩復興・都市整備課長。

○復興・都市整備課長（菅原伸浩）朝日竹の里線は、始点が県道岩沼蔵王線との交差点、終点が県道仙台岩沼線までの交差点までとして都市計画決定をされております。そのうち、現在事業を実施している区間は、朝日土地区画整理事業にあわせて道路を整備した西端を起点として、朝日線を西側に延伸して、長岡承水路を越えた最初の交差点を終点とする延長596メートルの区間の整備を行っております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）今説明がありました。大分丁寧な説明でありありがとうございます。

そこですね、今長岡承水路から少し行ったところの、西側に少し行ったところの交差点までと。では、この先があるんですけど、これも朝日竹の里線ですよ。このところについては、全くやらないということなんでしょうか。

○議長（森繁男）高橋伸明建設部長。

○建設部長（高橋伸明）これにつきましては、都市計画の道路、終点部のほうにありますが、今現在の事業としては途中まで、それ以降に最終地点まで、交差点分まで行えるように、お金もかかりますし、どういう手法でいくか、これを検討しながら延伸していきたいというふうに考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）2番目の質問です。西中学校の、岩沼西中学校の東側の歩道の確保なんですけど、これ北側、北側ですよ。ここの歩道の整備、歩道の整備だけでも考えないのでしょうか。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）ただいま申し上げたものと少しかぶりますが、西中学校東側の北側歩道の整備につきましては、現在の事業からは外れているために、本事業においては行いません。ただし、先ほど申し上げましたように、それ以降の延伸分になりますので、しかも歩道の整備が必要だということについては認識しておりますから、今後事業化に向けてですね、先ほど申し上げましたように、国の交付金事業の採択といったことも含めて取り組みを行ってまいりたいというふうには考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）といいますのはね、ことし寒かった。物すごい寒くてね、そして雪が降りました。この雪ね、長岡承水路を過ぎた西側、あそこは団地があって歩道があると、そこは歩道があるんですよ。ただ、その歩道の雪が解けないんですよ。だから、通学路の生徒が、あそこを滑りながらというか、そうい

うような状況でやっている。ただ、反対の北側にはこの白線とおぼしきペイントがあって、ここ歩道だよというふうに分かるところもあるんですよ。ただ、なかなか安心ではないなという感じがするんでね。そこは、もうちょっとね、考えてほしいと思うんですけど、その辺どうなんでしょうか。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）現在ですね、暫定で歩道が南側にだけありますが、それは三色吉南土地区画整理事業を施行するときにつくった道路と歩道になっています。北側への歩道については、ずっと今両側歩道で通ってきていますので、やっぱりこれについてはかなりお金もかかりますが、必要性は認識していますので、やはりそういった手法、そのいかに財源も手に入れるかも考えて、延ばしていきたいというふうには考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）ぜひ考えていただきたいと思います。

それでは、3番目の質問で、改良に伴って、丸沼堀の排水計画はどのように変わるのでしょうか。

○議長（森繁男）大久保智志下水道課長。

○下水道課長（大久保智志）はい。丸沼堀につきましては、長岡承水路の東側の市街化区域が排水エリアとなっており、今回の都市計画道路の整備に伴い、当初の計画どおりの施工を行うものであり、排水計画が変わるということはありません。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）わかりました。今、ほ場整備やっていたんで、その辺ちょっと変わるのかななんて思ったものですから、その辺は認識しました。

それと4番目、施政方針ですね、二反田ため池を暫定の調整池として活用するような文言がありました。西中学校の東側の道路は水害が多発しています。排水対策はどこまで効果があるのかお伺いします。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）今回、二反田ため池については、施政方針のほうでも市長が申し上げておりますが、新年度においてですね、調整池として新たに約8,000立米、8,000トンですね。それを貯水可能となるように整備いたします。この貯水量ってどういったものかというですね、まあ約13ヘクタールの開発面積に必要な調整池の面積であるというふうに御理解をいただければいいかなと思うのですが、ただ調整池でありますので、雨水を一時的にためるということですので、下流部の西中学校、先ほどお話しありました東側の道路冠水のその軽減には、そういう時差になりますので、効果があるというふうには考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）この、例えばね、これ、いい話なんですけど、多分ほ場整備が、北部では場整備ができたから、もうパイプラインで多分ため池の機能が要らなくなったのかなという、ちょっと認識をしています。そうすると、ため池のほうは今度は調整池になる。かなりの大きなため池なので、ただやっぱりあそこを有効活用するのに、もう少し例えばまだこれからちょっとやるんでね、何とも言えないんですけど、またあそこが水害で、あの道路が水害でね、あの道路というとあれだけど、西中の東側の道路ね。あそこが水害で通行どめとかなるとしたら、その辺は後々、例えば8,000立米のやつをもうちょっと大きくするとか、そういう考えはあるんでしょうか。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）はい。まずはですね、少しでもやれるところからやってみたいということで、8,000立米ということで、結構あれでまとまった調整池である。その調整池に活用した結果、どのようになるかについては、少し状況を踏まえなければならないと思っておりますので、どういった効果があるかは、やはり雨の降ったところで時々検証していきたいというふうに考えております。

ただ、今現在ある既存の調整池というか、二反田ため池を例えば大きくする、穴を掘るというものは、非常に効果に比べて非常にお金がかかるというふうなのが推測されますので、これについては今現時点で、現在の調整池をそういった、調整池自体をふやすということについては今現時点では考えておりません。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）わかりました。

次の5番目、都市計画道路、朝日山公園線というのがあります。これは、朝日山公園の東側と名取高校の西側の道路を新たにつくるということですが、この都市公園線、都市計画道路、これもうそろそろ廃止してもいいんじゃないかなと思うのですが、その辺はどうお考えでしょうか。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）朝日山公園線につきましては、歴史的に昭和41年の3月に決定した旧亀塚線、それから路線の一部を分離いたしまして、平成19年3月に都市計画決定をした道路でもあります。

本道路はですね、駅西地区内の南北の路線を、路線じゃないですね。南北の連絡を担う役割として整備する必要があるというものと捉えておりますが、今後今回の都市計画道路である朝日竹の里線の完成に伴う交通量の変化、あるいは社会情勢などに注視しながらですね、事業実施に対する課題、あるいは問題について整理してまいりたいというふうには考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）結構あの、あそこの道路をね、やっぱり問題もいろいろあると思うんですよ。ただ、やっぱり決断すべきだと思うのですね。だって、平成19年に中央線一部やめているのですから。そういうやめる決断というの、私はいいと思うんですけど、その辺どうでしょうか。

○議長（森繁男）高橋建設部長。

○建設部長（高橋伸明）都市計画決定道路なので、簡単に、何ていうんでしょうね。やめるというのは非常に大変な、今まで整理をかけていますので、なお今おっしゃられましたように、平成18年度に見直しをしております。岩沼市全体の都市計画道路については、整備をすべきか、あるいは見直しをすべきか、その中で2カ所について見直しを行ってきたという経過もありますし、10年、あれから経過しているということ。それから、朝日竹の里線の延伸とかですね、そういった交通の流れ、今後で上がったときになります、そういったことを踏まえた上で、先ほど何度も繰り返しますが、課題点、問題点あるのかということ踏まえて、来るべきというか、必要な時点において全体的な、その何ですか、見直しというのですかね。そういったところについてはしていく必要性もあるかなというふうに思いますが、今現時点ではまだ考えておりません。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）今時点では考えていないと言うのですが、なかなか今ここで言えないかもしれないけど、そういうのも考えていかなきゃいけないと私は思います。私がどうのこうのという立場じゃないけど、平成19年に大きな決断をしているわけですから、ぜひ大変でしょうけど、見直しも検討していただきたいと思います。

さて、最後、5番目の質問です。市長選の出馬についてお伺いをします。

菊地市長はこれまで市民の意見を尊重し、志賀に計画した火葬場を白紙撤回した上で、岩沼市東部地区に新火葬場が間もなく完成することになりました。また、最大会派岩沼政策フォーラムの沼田健一代表が紹介議員となった請願、岩沼市へのIR導入可能性調査の早期実施についての請願、いわゆるカジノの導入についての調査は、議会で可決されましたが、市長はやらない決断をしました。そういうことに我が会派は高く評価をしているところです。

そこで、今度の6月10日に投票がある市長選に出馬する意思はあるのか、お伺いをします。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）先ほど沼田議員の質問にもお答えしたとおりでございますが、今後市民の皆様、後援会の皆様としっかり相談をさせていただき、政策重視で前向きに検討してまいりたいと考えております。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）前向きというお話がありました。ただ、これまで例えば私が一般質問している入札の高どまり、そういうところに危機感を感じないのでしょうか。それで、対策が私は後手に回っているんじゃないか

なという感じがしています。また、きょうの質問で、陸上競技場の公認もとらないで3億円もかける。岩沼市の繁栄を試みていないのではないかなという感じがすごく強い。ただ、少し検討しますという話がありましたので、そこは期待をしています。そして、亀塚第一住宅跡地を、J O C Aへの事業主体としたことや、プロポーザル方式による選定は、体裁を整えただけだと、不透明だと言わざるを得ません。

市長、これから前向きに市長選、この次も継続して市長はこのまちをどのようなまちにしたいんですか。そこだけ、最後の質問とさせていただきます。

○議長（森繁男）菊地市長。

○市長（菊地啓夫）そうですね。まだそこまで考えておりません。しっかり任期を全うさせていただき、市民の生活の安定に、まずつなげていくことを第一に考えておりまして、さらにいろいろ決断に向けて進めてまいります。

○議長（森繁男）須藤功議員。

○9番（須藤功）終わります。どうもありがとうございました。

○議長（森繁男）9番須藤功議員のいわぬまアシストとしての代表質問を終了いたします。



○議長（森繁男）お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森繁男）御異議なしと認めます。よって、本日はこれで延会することに決しました。

残りの一般質問は明日午前10時から継続することにいたします。

本日はこれをもって延会いたします。御起立願います。—— 大変御苦労さまでした。

午後3時30分延会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

平成30年6月29日

岩沼市議会 議長 森 繁 男

議員 酒 井 信 幸

議員 須 藤 功